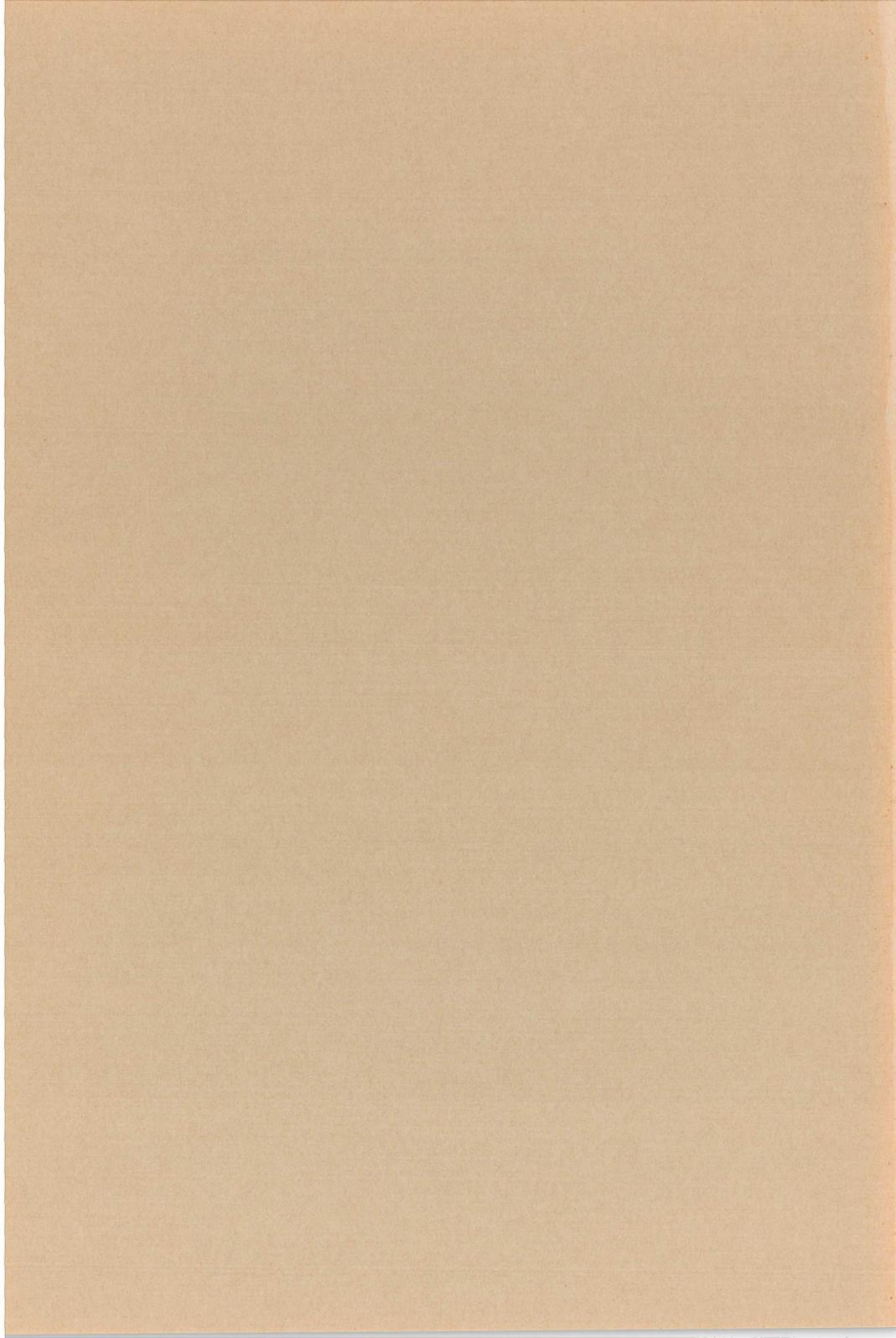


財団  
法人

# 東洋文庫年報

平成 8 年度

財団法人 東洋文庫



目次

I 図書事業	1
1. 資料の収集	1
2. 資料の整理	2
3. 資料の利用と複写サービス	3
4. 書庫資料の見学と研修	6
5. 資料の保存整理と複製	8
6. 業務の機械化	9
7. 書庫内資料と書架スペース	10
II 研究事業	11
1. 調査研究	11
i 文部省科学研究費による調査研究	11
ii 一般調査研究	14
iii 特別調査研究	17
iv その他の研究助成金による事業	18
v 研究委員会	25
2. 学術図書出版	26
3. 講演会	27
4. 研究会（東洋文庫談話会）	29
5. 学術情報提供	30
i 研究者養成	30
ii 研究者の交流および便宜供与のサービス	30
iii 研究会等への会場提供サービス	35
iv 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス	35
v 参考情報提供サービス	35
6. 職員の研究業績	36

Ⅲ 業務報告	50
1. 総務報告	50
2. 人事報告	51
Ⅳ 役職員名簿	52
1. 役員	52
2. 東洋学連絡委員会委員	54
3. 名誉研究員	55
4. 職員	55
5. 臨時職員	58
Ⅴ 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業	59
1. ユネスコ協力活動	59
2. 学術情報活動—アジア・北アフリカ人文・社会科学関係—	59
3. 重要文献の保存・普及活動	65
4. 研究普及活動	67
5. 情報公開促進	68
6. 業務報告	70
7. 役職員名簿	73

# I 図 書 事 業

## 1. 資 料 の 収 集

### (1) 資 料 購 入

資料購入費の支出総額は21,141,924円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)	非図書資料
一般文献資料	341	147	488	0
中央アジア特別研究資料	294	326	620	0
東アジア特別研究資料	1,427	0	1,427	0
西アジア特別研究資料	272	1,110	1,382	0
東南アジア特別研究資料	6	233	239	0
アジア特定資料	30	217	247	0
チベット特別研究資料	0	201	201	0
近代中国特別研究資料	774	41	815	0
計	3,144	2,275	5,419	0

おもな購入資料としては、以下のものがある。

新編中華人民共和国地方志叢書	503冊
四庫全書存目叢書 子部	201冊
続修四庫全書 經部	80冊
続修四庫全書総目提要(稿本)	37冊
Series Islamic geography.	148冊
アラビア語図書	505冊
ペルシア語図書	416冊
トルコ語図書	179冊

## (2) 資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区 分	受 贈			寄 贈		
	和漢書(冊)	洋書(冊)	計(冊)	国内(冊)	国外(冊)	計(冊)
単 行 本	592	543	1,135	1,282	778	2,060
定期刊行物	3,178	1,147	4,325	2,604	807	3,411
計	3,770	1,690	5,460	3,886	1,585	5,471

主な受贈資料としては、以下のものがある。

民族文化推進會寄贈 影印評点 韓国文集叢刊	21冊
梅村坦氏寄贈 中央アジア諸言語図書	357冊
矢澤利彦氏寄贈 Histoire des Missions de Chine : Mission du Se-tchoan. 1 - 2.	2冊

## (3) 蔵書数

収蔵する蔵書総数は806,944冊で、和漢書464,369冊、洋書319,174冊、複写資料23,401冊である。

## 2. 資料の整理

### (1) 図 書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書	3,172冊
欧米語図書	748冊
アラビア語図書	682冊
トルコ語図書	185冊
ペルシャ語図書	443冊

整理したおもな図書には次のものがある。

(1) 叢書集成初編未出書部分	535冊
(2) 新編中華人民共和国地方志叢書	361冊
(3) 四庫全書存目叢書	60冊
(4) 大清會典(康熙朝雍正朝)	56冊
(5) Islamic geography.	147冊

## (2) 目録の刊行

刊行した冊子目録は以下のとおりである。

『東洋文庫新着図書目録 44』 109 p

『洋書速報 No. 891 - 東洋文庫収集本特集』 46 p

## (3) 雑 誌

受入タイトル・冊数は次のとおりである。本年度新規受入数は19タイトルで、内訳は和漢17タイトル、洋雑誌2タイトルである。

	タイトル		冊 数	
	和 漢	洋	和 漢	洋
受贈	795	214	3,075	1,128
購入	192	114	1,266	320
小計	987	328	4,341	1,448
計	1,315		5,789	

## (4) 新 聞

24種（中文23種、洋1種）

外注製本の総量は新聞・雑誌合わせて1,012冊であった。

資料点数の急増、および資料のページ数増加は書庫スペース不足の原因のみならず、これにともなう資料整理時間の膨張が逐次刊行物の速報性を犠牲にしている点で問題である。そこで雑誌室は、ひとつの方策として、合冊製本の仕様に柔軟性を持たせ、資料の状況に応じて速やかに閲覧に供せる体制を検討中である。

## 3. 資料の利用と複写サービス

### (1) 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は452名で、内訳は教職員61名（外国人24名）、研究機関関係者27名（外国人16名）、大学院生111名（外国人32名）、大学生236名（外国人6名）、その他17名であった。

閲覧開館日は232日、利用者数は4,216名、利用資料数は56,319冊で、詳細は下記の通りであった。

近代中国研究委員会収集資料の貸出は延べ585名、1,560冊であった。内訳は中文857冊、日文646冊、欧文57冊であった。

東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ1,709名、4,174冊であった。

#### 開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比 (△印は減)
	(日)	(人)	(人)	(人)
平成8年 4月	20	247	12.4	36
5	20	338	16.9	62
6	19	244	12.8	△67
7	22	427	19.4	94
8	21	455	21.7	32
9	18	344	19.1	△58
10	21	465	22.1	38
11	18	389	21.6	△46
12	18	405	22.5	△136
平成9年 1	18	284	15.8	68
2	18	314	17.4	31
3	19	304	16.0	41
計	232	4,216	18.2	95

## 閲覧カウンター出納冊数

	和書		漢書		洋書		合計		日平均	昨年同月比 (△印は減)
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
平成8年 4月	202	506	369	1,956	168	332	739	2,794	139.7	△ 448
5	210	386	576	2,501	242	509	1,028	3,396	169.8	580
6	150	295	435	2,226	146	217	731	2,738	144.1	△ 1,954
7	429	750	804	4,776	210	352	1,443	5,878	267.2	1,616
8	285	830	990	5,744	290	600	1,565	7,174	341.6	33
9	350	730	683	3,756	211	348	1,244	4,834	268.6	△ 463
10	345	662	1,019	4,146	268	447	1,632	5,255	250.2	△ 429
11	337	667	739	3,558	174	270	1,250	4,495	249.7	△ 1,880
12	309	448	1,033	5,779	177	395	1,519	6,622	367.9	1,823
平成9年 1	290	506	558	3,514	205	342	1,053	4,362	242.3	1,758
2	250	526	608	3,077	309	723	1,167	4,326	240.3	1,538
3	377	722	621	2,750	224	373	1,222	3,845	202.4	929
計	3,534	7,028	8,435	43,783	2,624	4,908	14,593	55,719	240.2	3,103
比率	13%		78%		9%		100%			

### (2) 複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

#### マイクロ・フィルム

申込件数	撮影齣数	焼付引伸枚数	ポジ・フィルム
676	75,953	68,250	14,955 <sup>マ</sup>

#### 電子複写

申込件数	焼付枚数
931	59,507

### (3) レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて1,094件であった。

#### (4) 資料の貸出

博物館・美術館が主催して行う展覧会への貸出は4件で、詳細は次の通りであった。

#### 展覧会への資料の貸出一覧

	展覧会名	主催者	展覧会期間	開催場所	主な資料と数量
1	天界からのメッセー ジー-天使と天女	岡崎市美術博物館	平成8.7.6～ 9.29	岡崎市美術 博物館	『出像経解』1冊
2	遙かなる東洋紀行 ージョージ・チネリ ーと知られざる19 世紀広東・マカオ ・香港の美術展	東京都庭園美術館	平成8.12.7～ 平成9.2.11	東京都庭園 美術館	『Original drawings being 39 finished water colour drawings 84 pencil pen and aquatint sketches 1836 etc.』 他4点2冊、38枚
3	熱田と名古屋 ー中世から近世へ の歩みー	名古屋市博物館	平成9.1.25～ 2.23	名古屋市 博物館	『尾張国寺社領文書』 3冊
4	大人形への祈り ー息災と豊穡を願 うー	名古屋市博物館	平成9.3.8～ 4.6	名古屋市 博物館	『尾張年中行事絵抄』 他2点5冊

## 4. 書庫資料の見学と研修

申請は20件あり、297名に便宜を計った。その詳細は次のとおりである。

なお、このほかに当日申込の書庫見学が68件146名あった。

	実施日	申請者	参加者	人数(名)	主な内容
1	平成8年 4月12日	林 佳世子	東京外国語大学 教職員・学生	18	書庫内資料見学
2	4月26日	王 瑞来	学習院大学 教職員・学生	15	〃
3	6月17日	高田 幸男	明治大学 教職員・学生	35	〃

4	6月25日	小名 康之	青山学院大学 学生	10	〃
5	6月26日	佐藤 次高	東京大学教職員 ・学生	30	〃
6	7月4日	三浦 徹	お茶の水女子大学 教職員・学生	12	〃
7	7月11日	小松 香織	筑波大学教職員 ・学生	10	〃
8	9月18日	石川 重雄	立正大学学生	26	〃
9	9月18日	Thomas H. Lee	申請者本人 (米国 インディアナ大学 東アジア図書館長)	1	〃
10	10月1日	山名 弘史	法政大学教職員 ・学生	15	〃
11	10月3日	山根 幸夫	国士館大学学生	8	〃
12	10月8日	渋谷 由里	富山大学学生	13	〃
13	10月22日	東京大学東洋文化 研究所附属東洋学 文献センター	漢籍整理長期研修 研修生	12	所蔵資料についての研修および 書庫内資料見学
14	11月7日	アジア経済研究所 図書部	中国吉林省档案館 訪日代表団	6	書庫内資料見学
15	11月14日	山内 弘一	上智大学教職員 ・学生	15	〃
16	11月22日 平成9年	鶴見 尚弘	横浜国立大学学生	20	〃
17	1月10日	佐藤 隆	三菱商事広報部 社員	2	〃
18	1月21日	私立大学図書館協 会東地区部会研究 部レファレンス研 究分科会	私立大学図書館 協会東地区部会 研究部レファレン ス研究分科会会員	28	所蔵資料についての研修および 書庫内資料見学
19	1月29日	味岡 徹	聖心女子大学 教職員・学生	7	書庫内資料見学
20	2月7日	日本学会会議 事務局	アジア学会会議参 加者および同会議 実行委員	14	〃

## 5. 資料の保存整理と複製

原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルムなど他の媒体への変換を行った。  
作業項目と内容は下記のとおりである。

- (1) 漢籍地方志  
継続している作業で本年度は、分類記号Ⅱ-11-B j - 2、9、17、25、26を  
対象。  
裏打ち、補修 6,724葉、綴じ直し 168冊、帙作製 16帙。
- (2) 貴重洋書 (Old books)  
継続している作業で本年度は、分類記号O-9-49~O-10-170を対象。  
清掃、クリーニング、オイリング、PH測定 208冊、ラッパー作製 208冊。
- (3) その他の冊子資料  
近代中国研究委員会収集資料、目録室、閲覧室の参考図書資料を対象。  
本製本 30冊、再製本と簡易製本 81冊、和漢書の綴じ直し 40冊、保存箱作  
製 6ヶ、清掃、クリーニング 54冊、裏打ちと補修 167点。
- (4) 紙焼資料と一枚物 (巻き物)  
LC資料の保存箱 (ラッパー) 作製 230ヶ、一枚物の保存箱作製 19ヶ。
- (5) 資料の撮影 72,269コマ  
対象資料：昨年度に引き続き、漢籍稀観書を撮影した。対象は、元版と明以降  
の版で経部と史部である。またベラルデ文庫や劣化中国語資料、金庫本 Original  
Drawings of Chinese Costume の撮影も行った。
- (6) 活用フィルム作成のためのポジフィルムの作製 193リール  
撮影した漢籍稀観書、ベラルデ文庫、劣化中国語資料、および寄贈フィルムを  
対象にポジフィルムを作製した。
- (7) 資料の複製と他機関取り寄せフィルムからのプリント 27,067枚  
米国議会図書館所蔵旧国立北京図書館善本を対象にプリントした。

#### (8) 資料保存技術職員の海外への派遣

平成8年11月29日～12月21日までの期間、国際交流基金の文化遺産保存専門家派遣事業により、佐藤研究部長、小林輝男、西蘭一男の3名がエジプト国立図書・公文書館へ滞在し、資料保存対策と補修の技術指導を行った。

受講生32名を2グループに分け、小林、西蘭が交代で指導した。内容は、資料保存対策として資料保存の基礎学習のセミナーと、技術指導では、和紙を用いて修補（裏打ち、補修）と保存容器の作り方を指導した。

## 6. 業務の機械化

和漢書目録室では、平成6年度に導入されたマッキントッシュLC575により日常業務の機械化を進めた。新規受入資料の書誌事項等はコンピュータに入力され、目録整理やカード作成が簡便になり、新着図書目録の版下も館内で作成した。

## 7. 書庫内資料と書架スペース

### (1) 書庫内資料の排架一覧とおもな調整箇所

階	1号棟	調整箇所	2号棟	調整箇所
6	朝鮮本、安南本、満州本、蒙古本、和書（Ⅻ～ⅩⅦ・大型）	朝鮮本		
5	Old Books、PB、MS、漢籍稀観書、岩崎文庫、銅版画、古地図、梅原考古資料、辻文庫	Old Books		
4	洋書（Ⅰ～Ⅸ・大型）、第Ⅱモリソン文庫、ベラルデ文庫	洋書（Ⅲの一部、Ⅳ～Ⅵ）第Ⅱモリソン文庫、ベラルデ文庫	アジア諸語資料	アラビア語文献を除くアジア諸語資料
3	漢籍（経部・子部・集部・叢書・大型）	叢書、大型	洋書（Ⅹ～ⅩⅦ・ⅩⅨ）、モリソンパンフレット、ロシア語別置資料、アジア諸語資料	洋書（Ⅹ、Ⅺ）モリソンパンフレット
2	漢籍（史部）	編年類・伝記・総録	近代中国研究委員会収集資料	
1	逐次刊行物（日・中・朝・洋新聞）	逐次刊行物（日・中・新聞）	逐次刊行物（欧文）	

三菱経済研究所資料を移動して得られたスペースで、従前変則的排架を余儀なくされていた和・漢・韓雑誌を正規な排列に矯正した。

### (2) 書架の不足について

昭和58年の新書庫建設以来、書架の拡張は実現しておらず、年々増加する一方の資料で1、2号書庫とも満杯に近く、資料の適正な排架が困難な状態となっている。1号棟1階の新聞用書架は既に満杯となり、一部が通路に置かざるを得ない状況で、出納に支障をきたし始めている。昨年、預かっていた三菱経済研究所資料を引き取ってもらったことにより得たスペースで、1号棟1階の和・漢・韓雑誌の変則的排架は解消されたが、新たな書架スペースの獲得には殆どなり得なかった。年々増加する雑誌の特質から、当区域の書架は2、3年先には再び変則的な排架をせざるを得ない状況に陥るであろう。新書庫建設が望めない今日、一部の限定された資料群については、別置することを真剣に考えなければならない時期が到来していると言える。

## Ⅱ 研究事業

### 1. 調査研究

調査研究は、文部省の国庫補助金及び科学研究費補助金の事業費によるものと、民間学術研究助成事業費並びに東洋文庫学術情報提供事業費などによるものとにわかれる。

#### ⅰ 文部省科学研究費による調査研究

##### 基盤研究 (A) (1)

【課題】「戦前期中国実態調査資料の総合的研究」

【目的】;

- ①明治以降、日本の政府および民間の機関が中国で行った各種の実態調査の成果をまとめた調査資料は、旧中国社会の実態究明に有用な資料であるが、その豊富な内容に対応した利用状況にあるとは言い難い。本研究は、資料の有効活用のために必要な、研究者による解題を付した総合目録の作成を目指す第一段階として、中国主要部（華北、華中、華南）に関する調査資料について、各々、その内容、資料の性格と利用価値などを明らかにした解題を作成し、併せてデータベース化の基礎を作ろうとするものである。
- ②各種の調査資料について経済、政治、社会など各方面から検討する本研究は従来にないものである。その成果となる解題を付した総合目録は、中国近現代史のみならず、隣接諸科学の研究分野にも利用の便を提供し、中国での現状調査及び歴史調査の基礎データとして広く利用されるであろう。中国研究への寄与を確信する。
- ③従来、アジア経済研究所編『旧植民地関係機関刊行物総合目録』が資料の所在の検索に多大の情報を提供してきた。しかし、研究者による解題作成は、中兼和津次の旧満州農村・農業実態調査資料についてのみである。調査資料を活用した近年の研究には、内山雅生、Prasenjit Duara 等の華北農村・農業の研究、石田浩の中国主要部各地の農村社会研究などがあるが、地域、分野に偏りがある。中国主要部について経済、政治、社会などの各方面からする調査資料の研究と解題は本研究が最初である。

【研究実績概要】；

- (1) 前年度に引き続き本研究参加者14名が各自の調査を行ったほか、前年度の長崎大学につづいて、京都大学経済学部・農学部の附属図書館および東洋文庫で合同調査を継続した。
- (2) 前年度と同様に、資料の徹底的な調査と研究を継続した。また、前年度に収集した中国科学院管理下にある満鉄社内刊行物のマイクロフィルムを整理して、それらの資料の日本における所在状況の調査に着手した。
- (3) 検討を終了したものについて解題の作成とパソコンへの入力を継続した。

【研究代表者】 本庄比佐子 研究員

【研究分担者】；

統轄：本庄比佐子、内山雅生

華北経済・社会関係：吉田雅生、内山雅生

華北政治関係：西村成雄、川井伸一

華北社会関係：三谷孝

華中経済・社会関係：高橋孝助、曾田三郎、夏井春喜、足立啓二

華中政治関係：坂野良吉、久保亨

華南政治関係ほか：本庄比佐子、奥村哲、今井駿（以上、合計14名）

基盤研究（C）

【課題】「空思想の哲学的解明にむけての基礎研究」（個人研究；福田洋一研究員）

【目的】；

従来のインド仏教研究では、その研究対象を現代とは関係のない過去の出来事として扱ってきたが、仏教の中核をなす〈空〉についての思想は、単に異国の過去の一思想として扱われるべきものではなく、時代を越えて思索されるべき哲学として解明する価値のある思想である。本研究では、この空思想を哲学的に解明するために必要な基礎作業の遂行を課題とする。従来この種の研究はあまり高い評価を受けてこなかったように思われるが、その理由として考えられるのは、まず、基礎的な作業を抜きにした恣意的な読み込みに立脚した研究であったこと、および、西洋哲学的な表現の衣装を纏うことに急で、思想自体の深い理解に欠けていたこと、そして思想を再構築する際に従来の西洋哲学的概念構造を持ち込んでいることなどが指摘できる。中観思想のように既存の概念では把握しがたい哲学を明瞭な日本語によって解明するためには、その原典で扱われる概念を、関係する文献中のコンテキストにおいて正確に把握し、さらに、それを論理的な言葉で再構成する必要がある。そのためには膨大な文献の通読が必要であるが、幸いチベット語文献については、Asian Classic Input Project としてコンピュータ入力が始まっているので、そ

れを元に機械処理を行ない、関連箇所の検索や索引の作成が容易になってきた。そこで、本申請者はこの研究を、準備段階とそれを用いた次の段階との二段階で計画している。まず準備段階として、コンピュータが提出してくれる豊富な情報・用例に基づいて、重要な概念の意味をコンテキストの中で正確に把握する。第二段階として、その概念を申請者が続けてきた仏教倫理学の知識によって哲学的に再構築する。

【研究終了報告概要】；

本研究課題では、中観思想の根本的概念である「空性」を、論理的な表現によって解明・記述することを目標としてきた。空とは、存在と無という二律背反的な対立概念を越えた第三の存在様態を指していると考えられることができるが、通常の論理的な言語では十分な表現のできない概念と考えられてきた。とりわけインドの原典自体が用語上の統一性を欠いた曖昧な（よく言えば柔軟な）記述をしてきているために、それを直接解読するだけでは、根本的な理解に到達することは極めて困難である。本研究課題を進める課程で、体系的に欠けるインドの原典に対して天才的な読解を施し、さらにそれを体系的にまとめあげたチベット最大の哲学者ツォンカパの解釈を辿ることによって、空思想の哲学的な解明を進めてきた。ツォンカパについての従来の研究においても、そのような論理学的アプローチは積極的には行われてきていないので、ツォンカパ思想の研究にも貢献できるものと考えられる。

ツォンカパの解釈は極めて説得的ではあるが、しかし、その分原典にない視点が導入されている可能性も否定できない。事実、チベットにおいてもツォンカパおよびその継承者たちへの批判は根強く残っており、あるいはツォンカパの継承者たちの間でも、ツォンカパの著作において不明瞭であった諸点について様々な議論が行われてきた。今後はこれらの視点を検討することによって、ツォンカパによる空思想を相対化し、より広い視野のもとに論理的な空思想の解明を行う必要がある。

また、平成7年度に引き続き、コンピュータを駆使して以下の作業を行った。

- (1) 研究資料の収集・整理・読解を続行した。
- (2) 必要なテキストをコンピュータに継続入力した。
- (3) 専門用語の調査をし、テクニカルタームの語彙集のデータベースを作成した。
- (4) 重要な著書の和訳を準備した。
- (5) 中観思想、特にそれを論理的に再構成したチベット仏教ゲルグ派の中観理解について集中的に考察を加えた。
- (6) 以上の成果を電子メディアの形（一部は印刷物）で公開するため、その調整を行った。

## 研究成果公開促進費（データベース等）

- 【名 称】「東洋学総合情報システム」(A Comprehensive Information System of the Asian Studies) (東洋文庫電算化委員会委員長：北村 甫)
- 【期 間】平成8年度 (平成6年度新規採用、7年度採用、単年度ごと申請)
- 【分 野】「アジアの諸言語で書かれた文献およびアジアについて書かれた書籍」
- 【目 的】；

本データベースは、アジア諸国語によって書かれた文献を中心に、所蔵目録、国内所在目録、解題目録、研究文献目録、古典の文献のテキストなどのデータベース作成を目指す。これらはいずれも学術研究上、必須の基礎資料であることは論をまたない。これらについて、館内での作業および検索に際しては、欧文は言うに及ばず、アジア諸言語についても、できうる限りオリジナルの文字を使用し、やむを得ない場合でも学界で標準的に用いられている転写文字を使用して作成することによって、コンピュータ上でも正確な情報蓄積ができることを目指している。また公開に際しては、すべての研究者の利用の便を考慮し、様々なコンピュータに対応した文字セットと複数のフォーマットにて公開する。公開の手段は、現在はCD-ROMおよび Internet によるファイルの配布を行っている。

### 【事業実績概要】；

本年度は、アジアの諸国語で書かれた文献（マイクロ・フィルム、マイクロ・フィッシュも含む）について、コンピュータによる将来性・互換性・公共性を考慮したデータの記入法を検討し、東洋文庫所蔵の文献目録・解題目録・研究文献目録・テキストデータベース・索引等を作成し、電子メディアの形で供給する。平成8年度は平成7年度までに作成した公開可能なデータベースをCD-ROMおよび Internet で公開する。また昨年度からのデータベースの継続入力、東洋文庫所蔵全ペルシア語文献目録、インド、東南アジア地域の欧文目録、近代中国関係欧文目録、スタイン蒐集チベット語文献解題目録、米国会図書館蔵チベット語文献マイクロフィッシュの目録、チベット語テキストデータベースを作成するほか、アラビア語、ペルシア語、トルコ語・ウイグル語・カザフ語の中央アジア諸語、チベット語、欧文、和文、中文の新規図書のデータベースの作成を進めた。

なお、データベースのCD-ROMの公開に向けて、入力済みデータベースのフォーマットの変更と再チェックを行った。

## ii 一般調査研究

本年度は、特に、古代史研究委員会、日本研究委員会を中心に調査研究を進めた。  
(研究部12研究委員会の各委員会の中の研究課題の後に付された◎印は、文部

省国庫補助金事業費使用担当として主に重点的に行った事業を表わす。また、研究委員会の後に※印を付した委員会は、つぎの「iii. 特別調査研究」の事業を別途に行っていることを表わす。）

#### 東亜考古学研究委員会

- ① 故梅原末治評議員（京都大学名誉教授）の寄贈にかかる東亜考古学資料（写真、実測図、拓本、野帖等）の整理とその目録の作成。

#### 古代史研究委員会

- ① 中国都市研究会の開催。
- ② 東洋文庫所蔵中国画像銘、造像名、墓碑銘拓本の整理研究。
- ③ 『東洋文庫蔵越南本書目』の作成。°

#### 唐代史研究委員会

- ① 国内外に現存する西域出土古文書の所在調査と、マイクロフィルムによる収集・整理。
- ② 内外の諸機関・研究者に対する既収集敦煌文献と、それらの研究成果の公開、および情報の提供。
- ③ 敦煌・吐魯番等出土文書関係論著の収集およびそれらに引用された出土文書番号の採録カード（目録補遺）の補充。
- ④ 内陸アジア出土古文献研究会の開催。

#### 宋代史研究委員会

- ① 『宋史選挙志訳註（三）および（二）（三）の索引』の作成。
- ② 『宋史食貨志訳註（三）（四）（五）および総索引』の作成。
- ③ 『宋会要輯稿』食貨之部の要項（地名、一般）および語彙索引の作成。
- ④ 宋代研究文献目録及び速報の作成。

#### 明代史研究委員会

- ① 明代社会経済に関する文献の講読および研究会の開催。

#### 清代史研究委員会

- ① 『東洋文庫所蔵満文檔案』の整理・研究。
- ② 『満文内国史院檔』の講読研究会の開催。（研究会の開催）
- ③ 『満洲語刊本ユニオンカタログ』の作成。

### 近代中国研究委員会\*

- ① 近現代中国関係資料の書誌的研究。
- ② 近現代中国関係文献の収集、整理。
- ③ 『東洋文庫別置近代中国関係欧文図書分類目録』の編集、出版。
- ④ 日中現代史研究会の開催。
  - 6月1日(土) 于 乃明 「大正期の小田切万寿之助と寧湘鉄道、新四国借款団、華盛頓会議(関税改訂)問題について」
  - 7月27日(土) 安藤 正士 「中台関係雑感」
  - 10月19日(土) 李 暁東 「楊度と立憲君主制——国会速開論から帝政まで」
  - 12月20日(金) 門間 理良 「長春包圍戦役と卡子の問題について」
  - 3月19日(水) 久保田文次 「萱野長知と中国」
- ⑤ 戦前期中国実態調査資料の総合的研究。
  - 同研究会の開催
    - 8月8日(木) 井村 哲郎 「戦前期日本の中国調査機関について」
    - 9月21日(土) 松重 充浩 「外務省外交史料館所蔵の興亜院関係史料について」
    - 小池 聖一 「外務省文書・外務省記録の生成と“写”の態様」
    - 川井 伸一 「中国会社法の比較的検討(序)」

### 日本研究委員会

- ① 『東洋文庫所蔵岩崎文庫貴重書誌解題(Ⅱ)(Ⅲ)』の作成◎。
- ② 日本関係洋書解題目録の作成。

### 朝鮮研究委員会

- ① 漢字の朝鮮字音、中国音韻学の研究・調査。
- ② 李氏朝鮮の財政・民政関係史及び外交文書資料の講読・研究。

### 中央アジア・イスラム研究委員会

- ① 『イスラム革命関係小冊子類解題目録』の作成。
- ② イスラム国家論・都市論の月例研究会の開催。
- ③ イスラム社会の構造の研究。
- ④ 中央アジア・トルコ諸民族史の研究。
- ⑤ 中東イスラム世界における政治権力と宗教：総合研究。(以上、前年度の継続)

- ⑥ トルコ日本両国の近代化の比較研究。

チベット研究委員会\*

- ① 東洋文庫所蔵チベット語文献の整理・研究。  
② チベット学に関する研究会の開催。  
③ 『チベット語文献マイクロ・フィッシュ目録』の作成◎。

南方史研究委員会

- ① 東南アジア・南アジア関係歴史言語資料の調査・収集・研究。  
② ヴェトナム関係、タイ関係研究資料の整理、目録の作成。  
③ 『東洋文庫所蔵東南アジア・インド関係欧文図書分類目録（付索引）』の作成。  
④ 辻文庫目録(3)及び荻原文庫目録の Index の作成。

iii 特別調査研究

チベット特別調査研究（チベット研究委員会）

【目的】 チベット人との協同によるチベットの歴史・言語・宗教・社会の総合的研究

【研究課題】 チベット語文語辞典の編纂

【事業内容】；

1) チベット語文語辞典編纂のための調査・研究

チベット研究委員会招聘のチベット人研究者の協力のもとに下記の作業を進めた。

- ① 東洋文庫所蔵チベット撰述蔵外文献解題目録編纂のカードを点検し、目録データベースの作成を継続した。  
② チベットの伝統的仏教学の基礎教程について数冊の教科書を選び、分析・研究を進めた。  
③ 『スタイン蒐集チベット語文献』のデータベース化を進めた。  
④ チベット仏教の基本的文献についてのデータベース化を継続した。

2) チベット文献の収集・整理

区 分	洋 書
数 量	201 冊

### 3) 研究成果の刊行

- ① 『チベット仏教基本文献』 第2巻 B 5判 1冊 (刊行済)
- ② 『チベット特別調査研究年次報告』 A 5判 1冊 (刊行済)

## 近代中国特別調査研究 (近代中国研究委員会)

【目的】 近・現代中国研究関係資料の収集・整理とこれらの資料の書誌的研究

【研究課題】 近・現代中国研究関係資料の書誌的研究

【事業内容】 ;

- 1) 共同利用研究
- 2) 情報交換および参考業務 (近代中国研究事務室において常時遂行)
- 3) 図書資料の収集・整理

区 分	和漢書	洋 書
数 量	774冊	41冊

### 4) 研究成果の刊行

- ① 『近代中国研究彙報』 第19号 A 5判 1冊 (刊行済)

## IV その他の研究助成金による事業

### 1) 三菱財団人文科学研究助成金特別事業

- ① 【課題】 「満洲語文献の総合的研究」 (清代史〈満・蒙〉研究委員会)

【期間】 平成6年10月～平成9年9月 (3ヶ年間)

【目的】 ;

清朝の歴史を考察する際、その第一公用語であった満洲語文献を利用した研究が不可欠な状態となっている。これら満洲語文献は、現在、中国、台湾、日本のほか世界各地に所蔵されており、すでにいくつかの地域で、個別に所蔵目録が作成されている。そのうち「檔案 (公文書)」資料については、すでに今回の研究グループは、平成3・4年度の文部省科学研究費補助金 (総合研究A、研究代表者：神田信夫) を得て、その概要を報告している。また、中国、台湾における満洲語文献の状況については、各研究者がすでに十分な調査・研究とそれら資料保管機関との強い関係を有している。しかしながら、世界的な満洲語文献の統一的把握といった問題については、いまだ充分になされているとはいえ、各研究者が重複して調査を实

施しているケースもみられる。ここに世界的な視野からみて、各地に所蔵される満洲語文献を総合的に把握し、データベース化が急務となっている。この作業のまず第一歩として、世界中の満洲語の刊本（木版印刷本）の実態調査（書名、作者、刊行年月、保存機関、保存状況等）を実施し、ユニオンカタログを作成して、世界中の満洲語文献研究者ひいては清朝研究者の要求に応えたい。

【研究実施概要】；

世界の満文文献は、中国、台湾を中心に日本、ヨーロッパ（ロシアを含む）、アメリカ合衆国等に存在する。ただ、満文文献のうち文書資料については、中国の北京にある中国第一歴史檔案（文書）館だけでも約400万件以上保存されているといわれ、その全貌を把握することはきわめて困難である。それ故、本研究では数量上の問題から、満洲語諸文献のうち主として清朝時代に出版された「刊本」（木版を中心とする印刷物）の調査・研究を実施することにした（一部「鈔本」〈抄写本〉を含む）。また海外、とくに中国、台湾における実態調査は、文部省科学研究費助成金（国際共同研究）によって実施し、国内における実態調査と国際共同研究では計上されていない欧米での補完調査、そしてその両者の成果の総合的研究および整理を本研究によって行った。

これら各研究者が集積したデータは、年に3回予定している研究会（合宿）において討議し、各文献の異同を確認しつつ総合的把握に努めた。また、各年度別には以下のような研究を実施した。

- 平成6年度は、日本各地ならびに中国の満洲語文献保存機関において調査・研究を実施し、とくに「刊本（木版本）」を中心としてデータを集積した。このデータは、所定のカードにて記録を行ない、データベース・ソフトを利用してコンピュータに登録した。
- 平成7年度は、平成6年度の継続調査を実施し、中国、アメリカ合衆国、ロシア連邦等海外で調査を実施した。現在それらの結果を総合して、より充実したデータの集積を継続した。
- 平成8年度は最終年度（平成9年9月まで）であり、平成6、7年度の補完調査（日本およびヨーロッパ等）と、集積した満洲語文献、とくに刊本データの集積を行なって、総合的なデータベースを作成し、『世界満洲語刊本目録』（仮題）編纂の基礎作業を行った。

具体的には、平成8年7月、ロシア科学アカデミー東洋学研究所（モスクワ、サンクト・ペテルブルグ両支所）等の諸機関に所蔵されている満洲語資料の調査とマイクロ・フィルムによる蒐集を実施した。同9月には中国・瀋陽での学会参加の機会を利用して、中国第一歴史檔案館等所蔵の満洲語資料の確認調査をした。また、海外での調査と並行して、さきに入手した満洲語文献のマイクロ・フィルムを焼き付けて、分類・整理を実施し、その中の貴重資料の翻訳を行った。同10

月には、研究の総括と今後の研究計画の立案のため、研究会を開催した。ついで12月に満洲語資料に関するシンポジウムを開催して、ユニオンカタログ作成の規格統一等について検討した。

【代表者】 神田信夫研究員

【分担者】 松村潤、加藤直人、中見立夫、石橋崇雄の各研究員

および細谷良夫東北学院大学教授

② 【課題】 「戦前期中国調査資料の研究」 (近代中国研究委員会)

【期間】 平成7年10月～平成10年9月(3ケ年間)

【目的】 ;

明治以降、日本の中国進出にともなって、政府および民間の機関は中国の社会、経済、政治、地理などについて各種の実態調査を行った。その成果をまとめた調査資料、調査報告書は、文献研究において参考にされるばかりでなく、近年可能になった中国での実態調査や歴史調査に際しても、旧中国社会の実像を語る資料として利用されている。しかし、調査項目が多岐にわたったり、また資料名からは伺えない内容、或いは調査者の意図を超えた内容を含んでいる場合もあり、資料の多角的かつ有効な利用を困難にしている。

こうした状況に鑑み、本研究は、①現在の研究状況をふまえて資料の内容と性格および利用価値を明らかにする解題を作成し、②この作業を通してこれら資料に窺える中国認識を再検討すると同時に、歴史研究における調査資料の位置づけを再考しようとするものである。1970年代末以降の中国社会の変貌により伝統的中国社会の連続性が再認識される今日、旧中国社会の実態究明は中国近現代史研究における仮題の一つである。

本研究は、①そのための基礎データを内外の研究者に提供し、②戦前の中国社会研究の批判的継承について新たな問題提起を行うことにより、今後の中国研究に大きく寄与するものと確信する。

【研究実施概要】 ;

① 資料の研究 ; a) 研究の対象を中国主要部(華北、華中、華南)に関する調査資料とした。 b) メンバーがこれまでに未利用の各調査資料について、調査の目的と内容、調査実施の背景事情などの検討を通して、資料の性格、利用価値、内容を明らかにして解題を作成中である。 c) 既知の資料とも併せて、資料の相互関連性を検討して系統的な資料の整理をはかった。 d) 以上の計画のうちb)の作業を主として続けた。その過程においてc)の作業にかかわる問題として、戦前期日本の調査機関の活動について未解明な点が多いことが明らかになった。

② 資料の調査と収集 ; a) 東洋文庫の所蔵資料を中心に調査を行っているが、必

要に応じて他機関の調査も並行させて実施した。⑤既刊の目録に未収録の資料の発掘につとめるとともに、東洋文庫の所蔵しない重要資料については可能な限り収集をはかった。

【代表者】 本庄比佐子研究員

【分担者】 内山雅生（宇都宮大学教授）、三谷孝（一橋大学教授）、久保亨（信州大学助教授）、奥村哲（東京都立大学助教授）、坂野良吉（埼玉大学教授）

③ 【課 題】 「サンクト・ペテルブルグ所蔵内陸アジア出土文書の総合的研究」

（プロジェクト代表：佐藤次高研究部長）

【期 間】 平成8年10月～平成10年9月（2ケ年間）

【目 的】 ；

1900年、中国甘肅地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀までの文書群約6万点が発見された。これは中央アジア諸民族の興亡と中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。その文書の内容は、仏教文化を伝承した敦煌にふさわしく仏典の写本が最も多いが、敦煌を含む内陸アジア出土の文書には、各宗教の教典、文学、歴史書、各種の行政関係・軍事の公文書、寺院関係などの私文書、暦、医薬書など多種多様である。

ところが、発見より10年ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本など世界各地に四散秘蔵される結果となった。（財）東洋文庫は、敦煌研究文献センターとして、既にロンドン、パリ、北京にある敦煌文書のマイクロフィルムを組織的・網羅的に収集・研究してきた。今回は、考証をかさねて唯一未収集のロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルグ支所蔵敦煌等文書をマイクロ化することが可能となった。当文書には、漢文文献の他にチベット語、ウイグル語、西夏語、ソグド語、コータン語、サンスクリット語などアジア諸言語の文献を含んでおり、内陸アジアの歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の総合的研究の推進に大きく寄与するものと確信する。

【研究実態概要】 ；

ロシア科学アカデミー東洋学研究所サンクト・ペテルブルグ所蔵の内陸アジア出土文書には敦煌のほかにもその周辺の吐魯番・黒水故城などより入手した文書が含まれている。しかし、その全容についてはこれまで『アジア諸民族研究所所蔵敦煌漢文写本目録』（1963, 67年モスクワ刊、計2,954点の著録）からしか、僅かにうかがい知ることができなかった。最近では中国の上海古籍出版社刊『俄蔵敦煌文献』（現在1996年刊として7冊刊行）により、主に漢文仏典文書の影印であるが、第7冊分で2,150点を閲読できるにすぎない。

東洋文庫では、1953・4年に大英博物館所蔵A. スタイン卿将来の敦煌文書約

8,000点をマイクロ化して蒐集して以来、敦煌文献研究センターとしてその資料を一般に公開し、共同研究を実施してきた。敦煌文書収蔵主要4カ国のうち、今日ではロンドンの大英図書館・旧インド省図書館の敦煌文書約16,000点(92,000駒)、パリ国立図書館約7,000点(54,000駒)、北京図書館約9,000点(13,000駒、一説に約16,000点現存とも言われている)のマイクロフィルムを積極的に蒐集し、公開してその研究成果を発表してきている。

今回、機会を得て1993年から実質的な交渉を重ねて、唯一未収集であったサンクト・ペテルブルグ所蔵の内陸アジア文書約19,000点(250,000駒)をマイクロ化することが可能な状況になった。ロシアの敦煌等の文書群は、イギリス、フランス、中国の世界主要所蔵国のうち、研究分野においても、各民族の言語においても、質・量ともにぬきんでている。従って、各言語の専門研究者を動員して先ず、膨大な文書の総合的把握を行い、順次言語別にマイクロ化を機能的に推進する必要がある。とりあえず、平成8年3月及び7月に国際交流基金アジアセンターの助成を得て、ロシアの敦煌等文書の各言語別の予備調査とマイクロ化技術等の設備状況の実施調査などを行い、これを基礎に本事業計画では、ロシアの敦煌等文書の全マイクロ化とそのマイクロフィルムの蒐集とを計画的に遂行する。本事業によりロシアの敦煌等の内陸アジア出土文書をマイクロ化して蒐集できれば、東洋文庫は世界最大の敦煌文書研究センターとなり、5世紀から13世紀の中国を含む内陸アジア諸民族の興亡の歴史的総合研究が格段に進展することが期待される。

- ① ロシアの敦煌等文書は、その大部分が未整理・未公開であるので、各種言語の専門研究者を現地に派遣し、他の機関の所蔵と異なっている漢文、チベット語、ウイグル語の文献のマイクロ化のほかに、敦煌周辺のカラホト、トルファン、コータンなどの将来文書(膨大な西夏語、コータン語、クチャ語、ソグド語等の文献)を平成8年10月より平成10年9月の2ヶ年間に於いて、予算の許す限り順次マイクロ化する。
- ② 蒐集したマイクロフィルムは、各言語・分野別に研究プロジェクトを編成し整理・研究するとともに、フィルムを反転して広く一般に公開する。また、可能な限り日露共同チームを編成してウイグル語文献目録などを作成公表する。

【分担者】 西田龍雄、池田温、梅村坦、福田洋一の各研究員

および熊本裕東京大学教授

## 2) 国際交流基金アジアセンター文化財保存支援助成の対象事業

- ① 【課題】 「セント・ペテルスブルグ蔵敦煌等文書保存支援」  
(プロジェクト代表:北村 甫理事長)

【期 間】 平成7年度・8年度

【事業の背景・目的】；

1900年、中国甘肅地方の敦煌において、5世紀初めから11世紀前半までの一大文書群約6万点が発見された。これは、中央アジア諸民族の興亡や中国の漢族との関係など、従来の歴史研究の空白を一挙に埋める今世紀最大の原文書の出現である。ところが、発見より10年間ほどの短期間に、これらの文書はイギリス、フランス、ロシア、中国、日本などの世界各地に四散秘蔵される結果となった。東洋文庫は、敦煌文献研究センターとして、すでにロンドンの大英図書館・旧インド省図書館約16,000点(92,000駒)、パリ国立図書館約7,000点(54,000駒)、北京図書館約9,000点(13,000駒、一説に約16,000点現存とも言われている)の敦煌文書のマイクロフィルムを組織的に収集してきた。今回は、唯一未収集のロシア科学アカデミーSt.ペテルスブルグ所蔵敦煌文書の保全とそのマイクロ化による文書の収集を企画するものである。

【事業実施概要】；

ロシアのSt.ペテルスブルグ所蔵敦煌文書の収集は、1909年のS.オルデンブルグ探検隊の派遣以来数次にわたって行われ、その文書数は約19,000点(25万駒)に達している。この敦煌文書は、漢文文献(紀年のある西暦406年から1002年の写本)の他に、チベット語(吐蕃)、ウイグル語(トルコ系)、西夏語、ソグド語(イラン系)、コータン語、サンスクリット語など13世紀までのアジア諸言語の文献を含んでいる。その文書の内容は、仏教文化を伝承した敦煌にふさわしく仏典の写本が最も多いが、その他各宗教の教典、文学、歴史書、行政・軍事の公文書、寺院関係などの私文書、暦、医薬書など多種多様である。そして、それら大半の漢文文献の中には、他国収蔵の敦煌文書と縫合する文献が収蔵されてることも明らかとなっているが、未だその全容は不明なので、平成7年度の予備調査のもとに文書の全マイクロ化を推進した。

- ① 未整理・未公開のSt.ペテルスブルグ所蔵文書をマイクロ化によって保全し、これを東洋文庫が収集できれば、世界最大の敦煌文書研究センターとなり、これらを日本内外の研究者に公開して、5世紀から13世紀の中国を含む内陸アジアの歴史、言語、宗教、文学などについて、より一層の総合的研究を推進することが期待される。
- ② ロシアの敦煌等内陸アジア出土文書には、イギリス、フランス、中国の所蔵をはるかに上回る一大文書群であるので、その質・量を考えると5ヶ年計画のもとに全マイクロ化(1ヶ年間5万駒計5ヶ年間25万駒)を期す。平成8年度は西夏語、ウイグル語の撮影に着手した。
- ③ 平成8年度末までにマイクロ化による収集は、ウイグル語約4,000点、西夏(タングート)語約3,000点の中、3回に分けて到着した50 reels(807駒、12,709

齣、9,300齣)計22,816齣である。なお、平成9年度には、上記2言語の継続収集とホータン語約1,500点、サンスクリット語約3,000点のマイクロフィルムを収集する予定である。また、平成9年度には、平成10年度に収集を予定しているチベット語文書の予備調査のため、専門研究者1人を派遣予定である。

### 3) 国際交流基金文化財保存支援助成の対象事業

#### ① 【課題】「エジプト国立古文書館への協力者派遣」

(プロジェクト代表：佐藤次高研究部長)

【期間】平成8年度(単年度)

【目的】;

本事業は、国際交流基金の援助のもとに、財団法人東洋文庫がエジプト国立古文書館の文書補修事業に技術協力を行うものである。同古文書館は10世紀以降、特に16世紀以降、現代に至るまでの200万点を越える各種のアラビア語文書を所蔵している。しかしこれらの文書を組織的に保存する方法は確立されておらず、また文書の修復技術も満足すべき水準には至っていないのが現状である。

本事業では、エジプト国立古文書館館長の依頼に応じ、国立国会図書館支部東洋文庫の製本室職員2名と調整役1名をカイロに派遣し、文書保存と修復の技術指導を実施する。

【実施期間】; 1996年11月28日～12月22日

【事業内容】;

- (1)文書保存の考え方、方法、組織づくりの教授指導
- (2)古文書館の保存室職員30名に対する文書補修技術の教授指導
- (3)修得技術の点検

和紙を用いた日本の高度な文書補修技術は中東諸国の図書館関係者が等しく注目するところであり、今回の派遣事業が予定通り十分な成果をあげたことと確信している。

### 生化学工業株式会社寄付金特定事業 (南方史研究委員会)

【事業名】 東南アジア研究資料収集整理プロジェクト

(プロジェクト代表：山本達郎研究員)

【期間】平成7年度～同9年度(第3次3ヶ年計画)

【目的】 本プロジェクトは生化学工業株式会社社長水谷当弥氏の寄付金5千万

円を以て、東南アジア研究を促進するため、その研究資料を収集・整理し、研究者に公開することを目的とする。

- 【事業】 1) モリソン2世文庫：目録作成のための版下の作成を進めた。  
2) 東南アジア関係の資料の収集・補充を進めた。

#### 榎一雄記念特定事業

- 【事業名】 榎一雄記念事業プロジェクト (プロジェクト代表：河野六郎研究員)  
【期間】 平成7年度～同11年度(第2次5ヶ年計画)  
【目的】 本プロジェクトは榎家よりの寄付金1億円を以て、同家より寄付された故榎一雄氏旧蔵書の整理を行い、その目録を作成、刊行する。  
【事業】 1) 「榎文庫目録」の入力・校正を続行した。  
2) 前年度に引続き、図書 of 整理を継続した。  
3) 帙の作成を継続した。

#### V 研究委員会

研究部の研究事業を企画実施する研究委員会は、5部門の12研究委員会にわかれる。平成8年度の各研究委員会に所属する研究員などは以下のとおりである。なお、専任・兼任の研究員以外にも、外国人研究員、奨励研究員、各大学受入の国内研修教員なども各々の専門研究分野に応じて便宜上、指導研究員所属の12研究委員会のいずれかに所属させた。

##### 第1部 中国研究

東亜考古学：関野 雄、田村晃一

古代史：宇都木 章、越智重明、太田幸男、松丸道雄

唐代史(敦煌文献)：池田 温、菊池英夫、氣賀澤保規、妹尾達彦、土肥義和  
藤枝 晃、松本 明、山口 洋、L.I.Chuguyevsky

宋代史：草野 靖、佐伯 富、斯波義信、笠沙雅章、千葉 昶、中嶋 敏  
柳田節子、渡辺紘良、劉 偉文

明代史：鈴木立子、田中正俊、鶴見尚弘、山根幸夫、和田博徳、渡邊 宏、楊 暘

近代中国：市古宙三、滋賀秀三、田中正俊、本庄比佐子、矢澤利彦

## 第2部 日本研究

日本：石塚晴通、上野英二、海野一隆、酒井憲二、佐竹昭広、田中時彦、朽尾 武  
鳥海 靖、宮崎修多、柳田征司、山口謡司

## 第3部 東北アジア研究

満洲・蒙古（清代史）：石橋崇雄、岡田英弘、加藤直人、神田信夫  
C. A. ダニエルス、中見立夫、松村 潤

朝鮮：梅田博之、大江孝男、河野六郎、武田幸男、古屋昭弘、森岡 康、山内弘一  
乾 源俊

## 第4部 中央アジア・イスラム・チベット研究

中央アジア・イスラム：梅村 坦、片山章雄、後藤 明、小松久男、佐藤次高  
清水宏祐、志茂碩敏、薮 勇造、杉山正明、永田雄三  
花田宇秋、林 佳世子、本田實信、三浦 徹、護 雅夫  
八尾師 誠、何 星亮、江川ひかり、川口琢治

チベット：川崎信定、北村 甫、立川武蔵、西田龍雄、福田洋一、星 實千代  
松濤誠達、御牧克己、山口瑞鳳

## 第5部 インド・東南アジア研究

南方史：荒 松雄、池端雪浦、石井米雄、小名康之、風間喜代三、後藤均平  
永積洋子、原 實、三根谷 徹、山崎元一、山本達郎

## 2 学術図書出版

東洋文庫和文紀要

『東洋学報』 第78第1号～第4号 平成8年6月、9月、12月、3月刊  
A5判 4冊 全528頁

東洋文庫欧文紀要

“Memoirs of Research Department of the Toyo Bunko” No.54 1996年刊  
B5判 137頁

東洋文庫各種研究委員会刊行物

チベット研究委員会

- 『チベット仏教基本文献第2巻』 平成9年3月刊 B5判 xv+357頁  
『チベット特別調査研究年次報告』 平成9年3月刊 A5判 9頁  
『チベット語文献マイクロ・フィッシュ目録(付索引)』(特別研究資料出版B)  
平成9年3月刊 B5判 vi+375頁

近代中国研究委員会

- 『近代中国研究彙報』第19巻 平成9年3月刊 A5判 116頁  
『(東洋文庫別置)近代中国関係欧文図書分類目録』(特別研究資料出版A)  
平成9年3月刊 B5判 x+661頁

東洋文庫諸目録・其他刊行物

- 『東洋文庫書報』第28号 平成9年3月刊 A5判 90頁  
『東洋文庫新着図書目録』第44号 平成9年3月刊 B5判 109頁  
『東洋文庫年報』(平成7年度版) 平成9年3月刊 A5判 81頁

### 3. 講演会

春期 東洋学講座 (共通テーマ; アジアの聖者伝説〔Ⅱ〕)

第431回 平成8年5月14日(火)

「中央アジアの聖者・墓・墓守」 神戸大学教授 濱田 正美 氏

第432回 平成8年5月21日(火)

「インドのスーフィー聖者と政治権力 ―中世の遺跡を通じて―」  
東洋文庫研究員  
東京大学名誉教授 荒 松雄 氏

第433回 平成8年5月28日(火)

「聖者イブラーヒーム伝説 ―イスラーム世界から東南アジアへの拡大―」  
東洋文庫研究員  
東京大学教授 佐藤 次高 氏

秋期 東洋学講座 (共通テーマ; サンクト・ペテルブルグ文書の世界)

第434回 平成8年10月15日(火)

「ロシアの満洲語資料」

東洋文庫研究員

日本大学助教授

加藤 直人 氏

第435回 平成8年10月22日(火)

「東洋学研究所所蔵コータン語文書の意義」

東京大学教授

熊本 裕 氏

第436回 平成8年10月29日(火)

「オルデンブルグ蒐集の敦煌漢文書」

東洋文庫研究員

国学院大学教授

土肥 義和 氏

#### 特別講演会(不定期)

第1回 平成8年6月7日(金)

「ロシアの探検隊将来文書の整理と現状」

ロシア科学アカデミー東洋学研究所

(St. ペテルブルグ) 上級研究員

L.I.Chuguyevsky 氏

第2回 平成8年11月1日(金)

「明清時代の東北アジア・シルクロードと蝦夷錦の研究」

吉林省社会科学院

歴史研究所研究員

楊 暘 氏

第3回 平成8年11月7日(木)

「吉林省檔案館、その所蔵史料と活動」

吉林省檔案館副館長

程 国茹 氏

第4回 平成8年11月7日(木)

「吉林省社会科学院満鉄史料館所蔵満鉄関係史料をめぐって」

吉林省社会科学院

日本研究所所長

郭 洪茂 氏

第5回 平成8年11月12日(火)

「16世紀中央アジアの史料—ホンダミールの作品群—」

ウズベキスタン科学アカデミー

東洋学研究所上級研究員      ディララム・ユスポワ 氏

第6回 平成8年11月12日(火)

「中央アジアにおける都市と都市生活(15—16世紀前半)」

ウズベキスタン科学アカデミー

歴史学研究所上級研究員      ロージャ・ムクミーノワ 氏

第7回 平成8年11月25日(月)

「中国における元史研究の回顧」

内蒙古大学蒙古史研究所教授      亦 鄰真 氏

第8回 平成8年11月25日(月)

「清朝末蒙古王公図強の奏議」

内蒙古大学近現代史研究所教授      白拉都格基 氏

第9回 平成9年1月14日(火)

「Libraries in Egypt in the 21st Century」

エジプト国立図書・公文書館館長      Mahmoud F. Hegazi 氏

#### 4. 研 究 会 (東洋文庫談話会)

平成9年2月27日(木)

「前涼政権成立時の対外関係」      東洋文庫奨励研究員      山口 洋 氏

平成9年2月27日(木)

「19世紀中葉における北西アナトリア経済状況

—バルケシル郡『資産台帳』(1840年)の分析—」

東洋文庫奨励研究員      江川ひかり 氏

平成9年2月28日(金)

「13・14世紀カザフ草原史史料としての『チンギス・ナーメ』」

東洋文庫奨励研究員      川口 琢司 氏

平成9年2月28日(金)

「唐代復古文学史観の形成をめぐる」

東洋文庫受入研修教員  
高知大学人文学部助教授 乾 源俊 氏

## 5. 学 術 情 報 提 供

### i 研究者養成

- モンゴル研究 川口 琢司(北海道大学P.D.)  
「モンゴル・ティムール朝期の写本史料研究」
- トルコ研究 江川ひかり(お茶の水女子大学P.D.)  
「近代トルコにおける農村社会の変容」
- 中国研究 山口 洋(中央大学P.D.)  
「麹氏高昌国を中心とする河西地域史の研究」

### ii 研究者の交流および便宜供与のサービス

#### 1) 国内研究者の受入

乾 源俊 文部省国内研修教員(高知大学人文学部助教授)  
「唐詩集の研究」 (高知大学の依頼、平成8年5月1日～同9年2月28日  
半年間)

#### 2) 外国人研究者の受入

L. I. Chuguyevsky ロシア科学アカデミー東洋学研究所上級研究員  
「オルデンプルグ蒐集敦煌及び東トルキスタン発見社会経済史文書の総合的  
研究」 (日本学術振興会招聘、平成7年6月14日以降10ヶ月間、受入延長  
平成8年6月12日まで)

Tempa Gyaltzen 東洋文庫招聘研究員  
「東洋文庫チベット研究委員会による『チベット語文語辞典』の編纂協力」  
(平成元年5月以降招聘・平成8年6月20日、帰国)

- 楊 暘 中国吉林省社会科学院歴史研究所研究員  
「明清時代の東北史および蝦夷錦の研究」(日本学術振興会招聘、平成8年9月24日～11月22日・60日間)
- 何 星 亮 中国社会科学院民族研究所副研究員  
「中国新疆における民族の歴史と文化」(私費・平成7年12月27日～平成8年12月26日・1ヶ年間)
- 劉 偉 文 中国杭州大学歴史系講師  
「前近代日中家庭形態の比較研究」(私費・平成8年5月11日以降1ヶ年間)

### 3) 研究者の派遣

### 4) 外国人研究者への便宜供与

#### Australia

Morris F.Low Dr., Research Fellow, Division of Pacific and Asian History, Research School of Pacific and Asian Studies, Australian National University.

#### China (People's Republic)

李 俊清	山西大学政治学系副教授
李 守奎	吉林大学考古学系講師
鄧 偉	遼寧大学中文系教授、満学研究中心副主任
陳 真	北京大学中国語教育センター教授
李 範文	寧夏社会科学院研究員
張 海鵬	中国社会科学院近代史研究所所長
方 素梅	〃 民族研究所副研究員
何 星亮	〃 〃 〃
阿 拉 騰・ 奧其尔	〃 中国辺疆史地研究中心研究員
趙 聲良	敦煌研究院助理研究員
楊 森	〃 〃
羅 華慶	敦煌石窟文物保護研究陳列中心副館長
劉 偉文	杭州大学歴史系講師
楊 暘	吉林省社会科学院歴史研究所研究員
余 宏模	貴州省社会科学院民族研究所副研究員
姚 正群	北京大学哲学系教授

劉	世尤	中国重慶出版社編集委員
馬	一虹	遼寧大学日本研究所教授
施	和柱	上海社会科学院研究員
徐	天進	北京大学考古学部教授
成	崇德	中国人民大学清史研究所所長、教授
肖	平	中山大学外国語学院副教授
虞	和平	中国社会科学院近代史研究所教授
魏	堅	內蒙古文物考古研究所副所長
亦	鄰真	內蒙古大学蒙古史研究所教授
白拉都格基		◇ 內蒙古近現代史研究所所長、副教授
程	国茹	吉林省檔案局副局長
高	祥	◇ 征集利用處處長
魏	顯洲	◇ 歷史檔案管理处副處長
郭	洪茂	吉林省社会科学院日本研究所所長、滿鉄資料館副館長、副教授
李	力	◇ 歷史研究室主任、副教授
石	仲泉	中共中央党史研究室教授
周	生春	浙江大学哲学社会学系副教授
王	振忠	復旦大学歷史地理研究所副教授
王	永祥	南開大学歷史系教授
王	金林	天津社会科学院日本研究所教授

China (Taiwan)

黃	自進	中央研究院近代史研究所副研究員
陳	捷先	台湾大学歷史系教授
羅	麗馨	国立中興大学歷史系副教授

France

Laurent Sagart	Dr., Research Fellow, C.R.L.A.O., Centre National de la Recherche Scientifique(C.N.R.S.).
----------------	---

Marianne Bastid-Bruquiere	Directeur de Recherche au Centre National de la Recherche Scientifique(Chinese Modern History).
---------------------------	---

Hong Kong

Irene B. Lillig	Ph. D. Student, Department of History, The Chinese
-----------------	--

University of Hong Kong.

Iran

Amir Madani Prof. Dr., Department of Economics, National University of Iran.

Italy

Giovanni Stary Prof. Dr., Division of Manchu History, University of Venice.

Korea

鄭 健宰 全南專門大學校歷史系助教授  
李 相均 全州大學校教養學部講師  
金 東哲 釜山大學校史學科教授  
金 浩東 Seoul 大學校史學科教授  
鄭 客淑 釜山大學校歷史教育科教授  
蔡 尚植 釜山大學校史學科教授  
具 山祐 蔚山大學校史學科講師  
全 基雄 東亞大學校史學科講師  
魏 恩淑 慶星大學校史學科講師  
尹 用出 釜山大學校歷史教育科教授  
崔 元奎 釜山大學校史學科教授  
金 琪奕           "       "       "  
李 正守 東西大學校人文社會學部教授  
成 百仁 Seoul 大學校人文大學教授  
金 弘吉 江陵大學校歷史系助教授  
李 勛相 東亞大學校歷史系助教授  
李 晶淑 釜山女子大學校歷史系講師

Russia

L.I. Chuguyevsky Senior Research Worker (Specialization Tun-huang Studies), Institute of Oriental Studies (St. Petersburg Branch), Russian Academy of Sciences.

M. I. Vorobyova-Desyatovskaya Dr., Supervisor of Manuscript Department, Institute

- of Oriental Studies (St. Petersburg Branch), Russian Academy of Sciences.
- Yuri A. Petrosyan Director, Prof., Institute of Oriental Studies (St. Petersburg Branch), Russian Academy of Sciences.
- Elena N. Uspenskaya Fellow of Council, Ph. D., Museum of Anthropology and Ethnography named for Peter the Great (Kunstskammer).
- ウラディミール  
ウスペンスキー ロシア科学アカデミー東洋学研究所 St.ペテルブルグ支所  
上級研究員.
- Tatiana A. Pang Secretary, Institute of Oriental Studies (St. Petersburg Branch), Russian Academy of Sciences.
- Saudi Arabia
- Abdullah Al-Askar President, Saudi Arabian Association for Historical Studies, Associate Prof., King Saudi University., Riyadh
- Singapore
- Wong sin Kiong Lecturer, Department of Chinese Studies, National University of Singapore.
- Sweden
- Steffan Rosen Dr., Prof., Department of Korean Studies, Stockholm University.
- Turkey
- Samil Unsal Dr., Associate. Prof., Faculty of Economics, Department of Public Finance, Istanbul University.
- U. K.
- John P.C. Moffett Librarian, Needham Research Institute, East Asian History of Science Library.
- U. Pagel Librarian, The British Library.
- Yu-ying Brown Head of Japanese Collection, Oriental and India Office Collections, The British Library.
- U. S. A.

Joan R. Piggott	Associate Prof., Premodern Japanese History, Department of History, Cornell University.
Karl E. Rebecca	Associate Prof., Department of History, University of Florida.
Thomas H. Lee	East Asian Librarian, Indiana University. Library.
Mark C. Elliott	Assistant Prof., Department of History, University of California (Santa Barbara).
Ann M. Harrington	Professor, Loyola University. Chicago.
Ruth W. Dunnell	Assistant Prof., Keyom College, University. of Ohio.

### iii 研究会等への会場提供サービス

数量/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会等回数	17	13	17	9	3	10	17	17	8	7	14	13	145回
参加人数	153	374	276	93	37	117	317	255	59	98	173	119	2,071人

### iv 研究資料の覆刻・増刷の刊行サービス

東洋学報第77巻3・4号・第78巻1,2,3号	各500部
千頃堂書目著者名索引	350部
宋史選拳志譯註(二)	350部
西藏仏教基本文献(1)	100部
近代中国研究彙報第18号	70部
東洋文庫欧文紀要第53号など2種	各50部

### v 参考情報提供サービス

『東洋文庫年報』平成7年度版 A5判 1冊 81頁  
 (上記の出版については、2.「学術図書出版」に一括されているので参照されたい。)  
 ※なお、《6.学術情報提供》における「図書資料の閲覧(協力)サービス」、「研究資料複写サービス」の事業報告については、『I. 図書事業』の項目に便宜上、一括して掲載した。また、同じく「特定研究資料の収集」、「研究資料の補修再製本・製本」等については、平成8年度はとくに報告することはない。

## 6. 職員の研究業績

期間：平成7年4月1日～平成8年3月31日まで

略号：①…著書 ②…編書 ③…論文 ④…学会動向 ⑤…書評・紹介  
⑥…翻訳 ⑦…講演 ⑧…その他（評論・雑記・座談会等）

### 池田 温

②松丸道雄・斯波義信・神田信夫・濱下武志共編『世界歴史大系 中国史Ⅱ（三国～唐）』（執筆「文化」部分）（551+98頁、山川出版社、1996年7月）、『日中文化交流史叢書2 法律制度』（劉俊文共編）（450頁、大修館書店、1997年1月）、『唐令拾遺補』（仁井田陞著、小口彦太・古瀬奈津子・坂上康俊・高塩博・川村康共編）（1524頁、東京大学出版会、1997年3月）、③「北京圖書館藏開元戶部格殘卷簡介」（『敦煌吐魯番學研究論集』、159～175頁、書目文獻出版社、1996年6月）、「中国と日本の元号制」（『日中文化交流史叢書2 法律制度』、362～410頁、大修館書店、1997年1月）、「麻礼塔格出土盛唐寺院支出簿小考」（『段文傑敦煌研究五十年紀念文集』、207～225頁、世界圖書出版公司、1996年8月）、⑤「重厚な史学の新誌『唐研究』第一卷」（東方182、2～4頁、1996年5月）、⑥劉俊文「敦煌学の最前線を拓く『敦煌吐魯番研究』第一卷」（東方189、26～30頁、1996年2月）、「劉俊文「中日制交流史略述」（『日中文化交流史叢書2 法律制度』、1～13頁、1997年1月）、「劉連安『唐法東伝』（『日中文化交流史叢書2 法律制度』、16～48頁）、「汪桂手『大学衍義補』と『無刑録』（『日中文化交流史叢書2 法律制度』、218～241頁）、「姚榮濤「中日弁護士制度の淵源と比較」（『日中文化交流史叢書2 法律制度』、411～438頁）、⑦Les manuscrits de Dunhuang et les registres de dépenses des monastères découverts à Mazar-Tagh (Xinjiang) (Paris 漢学研究所、1996年4月3日)、「唐代『法例』小考」（第三届唐代文化學術研討會、台北国立政治大学、1996年11月24日）、⑧「中国現存日本古文献の一端—特に楊守敬将来品」（日本歴史575、59～60頁、1996年4月）、「唐代史研究会25年寸感」（唐代史研究会会報9、26～27頁、1996年7月）、「訃報 姜亮夫教授」（古代文化48-8、37頁、1996年8月）、「中国木簡の特色」（『木簡が語る古代史（上）都の変遷と暮し』、23～47頁、吉川弘文館、1996年9月）、「駒場歴研のころ」（史 Fuhito 2、2～4頁、1996年11月）、「シヤヴァンヌ」（『東洋学の系譜—欧米篇—』、103～113頁、大修館書店、1996年12月）。

### 石橋 崇雄

③「滿文『han i araha gucu hoki i leolen.（御製朋党論）』（国史館史学4、1

～32頁、国士館大学文学部国史学・東洋史学専攻、1996年3月）、『『音漢清文鑑』(巻2) 満洲語索引—政事類・巡狩額・事務類・繁冗類・辦事類・官差類・輪班行走類—(国士館大学文学部創設30周年記念論集、167～182頁、国士館大学文学部、1996年11月)、⑤「中国で近年刊行された満洲語に関する辞典類」(東洋学報78-1、63～71頁、東洋文庫、1996年6月)、⑧「満洲語をめぐって—清朝の歴史・社会・文化を知る一助として—」(満学協会会報7、45～53頁、満学協会、1997年2月)。

石井 米雄

③ “Siam and Japan in pre-modern times : a note on mutual images” in Donald Denoon et al. (eds.), *Multicultural Japan, Palaeolithic to Postmodern*. Cambridge : Cambridge University Press, 1996, pp.153-159, “Ayutthayan-Japanese relations in the pre-modern period : a bibliographic reflection” in *The Transactions of the Asiatic Society of Japan fourth series, vol.10, 1995* (1996年度出版)、「タイ・ムスリムと国王の宗教擁護」(飯田順三訳・千葉正士編『アジアにおけるイスラーム法の移植』、成文堂、1997年1月)。

上野 英二

③「ハーバード大学美術館所蔵 源氏物語須磨巻・蜻蛉巻について(乾)」(成城国文学論集25、49～110頁、成城大学大学院文学研究科、1997年3月)。

宇都木 章

⑧「後漢の帝都—洛陽城」(『中国五千年』第3巻、後漢・三国、22～25頁、世界文化社、1996年9月)、「春秋時代の時期区分」(歴史と地理492、29～31頁、山川出版社、1996年8月)。

梅田 博之

④「日本における朝鮮語研究の流れ」(日本語と外国語との対照研究Ⅳ『日本語と朝鮮語』上巻 回顧と展望編、1～7頁、国立国語研究所、1997年3月)、⑦ “Some Problems on Teaching Korean Pronunciation for Japanese Natives” (The Third Pacific and Asia Conference on Korean Studies, Held at The University of Sydney Australia, 1-4, July, 1996)、「外国語学習としての韓国語学習」(韓国国語教育研究会日本支会 韓国語教育シンポジウム「日本地域における韓国文学・文化・言語教育—その現状と展望—」、1996年11月9日、上智大学)。

海野 一隆

③『『寛政曆書』所載天地両球儀図』(洋学：洋学史学会研究年報4、13～43頁、八

坂書房、1996年10月)、④「ハーリ地図学史研究奨学金第3回授与決定」(地図34-2、73頁、日本国際地図学会、1996年6月)、⑦「江戸幕府と天・地球儀」(洋学史学会総会、1996年5月12日)、「知られざる測量家秦檜丸」(日本古地図学会総会、1996年6月29日)、「漂流民津太夫らがロシアで見た巨大地球儀」(三学会合同地図学史講演会、1996年10月26日、要旨：地図35-1、61~62頁、日本国際地図学会、1997年3月；洋学史通信9、22頁、洋学史学会、1997年3月)、「剣阿と‘地理図」(京都大学地理学談話会講演会、1996年11月15日)、⑧「地球儀の製作はいつ始まったか」(地理地図資料100、8頁、帝国書院、1996年4月)、「司馬江漢『地球全図略説』の諸版本」(日本古書通信61-10、24~26頁、日本古書通信社、1996年10月)、「『寛政曆書』所載‘蜜製天球儀’‘蜜製地球儀」(洋学：洋学史学会研究年報4、8~9頁、八坂書房、1996年10月)、「ピントの遍歴記に見える‘ナウタキン」(学燈93-11、12~15頁、丸善、1996年11月)、「地図をめぐる秀吉の生涯」(地図ニュース291、3~6頁、日本地図センター、1996年12月)。

#### 太田 幸男

③「世界史認識の形成についてのいくつかの問題」(歴史評論564、3~19頁、歴史科学協議会、1997年3月)、⑥侯外廬著『中国古代社会史論』(岡田功・飯尾秀幸と共訳)(名著刊行会、1997年1月、457+18<解説>頁)、⑧「『歴史評論』創刊50周年」(シンポジウム)(歴史評論558、55~102頁、歴史科学協議会、1996年10月)。

#### 岡田 英弘

①『台湾の命運-最も親日的な隣国-』(弓立社、1996年11月30日、238頁)、③“The imperial seal in the Mongol and Chinese tradition”(*Proceedings of the 38th Permanent International Altaistic Conference (PIAC), Kawasaki, Japan: August 7-12, 1995*, 273~280頁、Harrassowitz Verlag in Kommission、1996)、「草原の道と文化の交流」(CEL39、14~17頁、大阪ガス・エネルギー・文化研究所、1996年12月)、「漢字の運命を決定した秦の始皇帝」(書の宇宙2、66~75頁、二玄社、1997年1月)、「北アジアの遊牧民族を統一し草原の勇者から世界の覇者へと変貌を遂げた歴代ハーンの治世」(クローズアップ中国五千年5、64~72頁、世界文化社、1997年1月)、④「第三八回国際アルタイ学会」(東洋学報77-3・4、87~94頁、東洋文庫、1996年3月)、⑤「J.K.フェアバンク著、大谷敏夫・太田秀夫訳『中国の歴史-古代から現代まで-』」(図書新聞2312、4面、(株)図書新聞、1996年10月5日)、⑦「台湾問題を考える-台湾を手放したのは鄧小平だ-」(エグゼクティブ・アカデミー研究講座朝食会、ホテル・オークラ本館2階飛鳥の間、1996年5月20日、全文：エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ、1~36頁、(株)エグゼクティブ・アカデミー、1996年6月)、「満洲人の帝国-清朝」(あけぼの会、

中野区立歴史民俗資料館、1996年7月19日)、「秦の始皇帝が漢字と中国を創った」(古代を学ぶ会、中野区勤労福祉会館、1996年9月11日)、「モンゴル人の歴史—いまのモンゴルはどうして出来たか—」(日本モンゴル協会、東京文化会館、1996年9月13日、要旨:日本とモンゴル31-2、74頁、(社)日本モンゴル協会、1997年3月)、「チンギス・ハーンとアレクサンドロス」(ユーラシアン・クラブ、国立教育会館、1996年10月11日)、「講演」(東洋文化研究会じゃすみん倶楽部、銀座二丁目ニューキャッスル、1996年11月9日)、「中国人の法則」(国際関係基礎研究所、ホテル・オークラ本館1階アトランティック・ルーム、1997年1月10日、全文:エグゼクティブ・アカデミー・シリーズ、1~37頁、(株)エグゼクティブ・アカデミー、1~37頁、1997年3月)、「モンゴル帝国とその継承国家」(比較文化研究会、中央大学駿河台記念館510号室、1997年1月11日)、「中国人、台湾人、華僑—日本人とどう違うか—」(渋谷菱信会、ホテル・オークラ本館2階エメラルド・ルーム、1997年1月20日)、「コメントと討論」((社)日本経済調査協議会第14回鈴木治雄委員会・(財)かながわ学術研究交流財団「21世紀 文明の対立から融合へ向けて かながわ円卓会談」、葉山湘南国際村センター国際会議場、1997年2月21~22日)、「歴史から見たチベットの立場」(チベット民族蜂起38周年記念行事、ダライラマ法王日本代表部・チベット国際平和推進連盟、霞ヶ関ビル33階東海大学校友会館、1997年3月9日)、「台湾の昔と今」(中国史を学ぶ会、中野区勤労福祉会館3階会議室①、1997年3月10日)、⑧ “Introduction” (*Proceedings of the 38th Permanent International Altaistic Conference (PIAC)*). Kawasaki, Japan : August 7-12, 1996, VII~VIII, Harrassowitz Verlag in Kommission, 1996)、「メッセージ (Message)」(平成8年国際学部専任教員一覧、5頁、常磐大学国際学部、1996年)、「世界へ、自己を拓く 常磐大学国際学入門公開授業より 9 「モンゴル」に没入 自分を知るために」(茨城新聞36507、16面、茨城新聞社、1996年6月23日)、「質疑応答」(入江昭:台湾をめぐる米中関係、23~25頁、国際関係基礎研究所、1996年7月)、「自分を知るために」(国際学入門、50~53頁、常磐大学国際学部、1996年9月、茨城新聞より再録)、「グラハム・ハンコック著『神々の指紋』—推論ばかりで何も立証せず—」(朝日新聞、12版19面、1996年10月12日)、「中国人が倭国をつくった!—「倭国の時代」と古代東アジア世界—」(『逆転の日本史 古代史編』、26~64頁、洋泉社、1996年11月)。

## 越智 重明

③ 「中国のサーカス史一斑(1)」(久留米大学文学部紀要 国際文化学科編9・10、101~157頁、久留米大学、1996年6月)、「戦国秦漢時代の集落(3)」(久留米大学比較文化研究所紀要18、55~101頁、久留米大学、1996年9月)、⑧ 「漢民族の形成」(歴史と地理498・余滴、32~33頁、山川出版社、1997年2月)。

風間 喜代三

③「印欧語の「肝臓」(法政大学教養部紀要100、1～30頁、1997年2月)。

神田 信夫

②『東大卒業五十年われわれの道程』(谷井精之助・山根幸夫と共編、238頁、山川出版社、1996年4月)、⑤「楊珍著『康熙帝一家』(満族史研究通信6、104頁、満族史研究会、1997年3月)、⑦「清朝の檔案史料と歴代宝案」(筑波大学第一学群人文学類文化講演会、1996年11月15日)、「世界における清朝史料」(東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所シンポジウム「清朝史料の世界」、1996年12月13日)、⑧「東洋史同期生の座談会」「満洲語文献を訪ねて—旧満洲檔の探究—」「あとがき」(『東大卒業五十年われわれの道程』、29～33、107～122、236～237頁、山川出版社、1996年4月)、恒煦・啓孫・烏拉熙春著『愛新覚羅氏三代満学論集』序(『愛新覚羅氏三代満学論集』、1～2頁、呼和张特：遠方出版社、1996年8月)、「学問の思い出—小葉田淳博士を囲んで(座談会)—」(東方学93、163～186頁、東方学会、1997年1月、「『駿台史学』の創刊された頃」(駿台史学100、12～17頁、駿台史学会、1997年3月)。

氣賀澤 保規

③「世界史上の長安」(月刊しにか1996年9月号(特集 花の都・長安)、14～19頁、大修館書店、1996年9月)、「我的簡歴和研究成果」(唐研究縦横談(胡戟主編)、59～70頁、中国社会科学出版社、1996年11月)、「金仙公主と房山雲居寺石經の彼方—唐代政治史の一側面—」(明大アジア史論集・創刊号、3～29頁、明治大学東洋史談話会、1997年3月)、「中国新出石刻関係資料目録(6)—1989年より1990年まで—」(明治大学人文科学研究所紀要41、117～154頁、明治大学人文科学研究所、1997年3月)、「房山雲居寺静琬の後継者と石經堂」(周紹良先生欣開九秩慶寿文集、294～306頁、中華書局、1997年3月)、⑥「王維坤著『長安城のプランニング』」(月刊しにか1996年9月号(特集 花の都・長安)、20～27頁、大修館書店、1996年9月)、⑦「個人研究的経緯和府兵制度之研究概要及日本唐史学界状況」(唐史高級研討班学術夏令営、1996年7月30日)、「隋煬帝の歴史地位及其評価」(隋煬帝国際学術研討会、1996年8月4日)、「中国唐史高級研討班学術夏令営の研究報告」(唐代史研究会秋期大会、1996年11月9日)、「唐金仙公主和房山雲居寺石經—唐代政治史の一側面—」(第三屆唐代文化学術研討会、1996年11月24日)、「石の經典—末法の世へのメッセージ」(NHK教育テレビ・こころの時代～宗教・人生、1997年3月23日)、⑧「唐代宮女の図・解説」(世界史写真集解説書Ⅳ、山川出版社、15図、1996年5月)、「房山雲居寺新研究の意義と課題」(中外日報1996年6月4日、第1面～第2面、中外日報社)、「唐の長安の人口と兵士」(法史学研究会会報2、48～53頁、法史学研究会、1997年

3月)。

後藤 均平

⑧「解説 小倉芳彦著『入門 史記の時代』(ちくま学芸文庫、筑摩書房、1996年8月、325～330頁)。

小松 久男

③「トルキスタン人の生成とその行方:フィトラトの軌跡を中心に」(歴史学研究690、93～101頁、1996年10月)、「中央アジアの民族問題—ブハラとサマルカンドのタジク人—」『中央アジアの世界—シルクロードから現代へ—』(86～103頁、北海道開発問題研究調査会、1996年10月)、“Turkistanilər : A Muslim Group Identity in Russian Turkistan”, Korean Journal of the Middle East Studies, No.17,1996, pp.411～420、⑤王柯「東トルキスタン共和国研究」(アジア経済37-12、78頁、1996年12月)、R.マーソフ「粗野な分割の歴史」(東洋学報78-4、67～74頁、1997年3月)、⑦「トルキスタン人の生成とその行方:フィトラト(1886-1938)の軌跡を中心に—」(歴史学研究会大会近代史部会、早稲田大学、1996年5月26日;報告要旨 歴史学研究684、48～49頁、1996年5月)、「中央アジアの民族問題」(北海道大学スラブ研究センター公開講座「中央アジアの世界:シルクロードから現代へ」1996年5月30日)、“Turkistanilər : A Muslim Group Identity in Russian Turkistan”(韓国中東学会年次大会、1996年9月5日)、「中央アジアのイスラム」(中野区民講座「台頭するイスラムの世界」1996年10月11日)、「アラル海の危機と現在の中央アジア」(ユーラシアン・フォーラム、1996年11月8日、国立教育会館)、史学会シンポジウム「ディアスポラの開く商業空間」(史学会大会、1996年11月10日;報告要旨 史学雑誌105-12、1996年12月、120～121頁)、中央アジアの革命と民族—あるブハラ人の生涯を通して—(渋谷区民大学講座「激動の現代シルクロード世界」1996年11月22日、渋谷区役所)、⑧「旧ソ連・中央アジアのイスラム復興の現在」(GEO 1996年9月号、120頁)、「ジャディードの鏡」(UP 286号、6～11頁、1996年8月)、「バルトリド」(高田時雄編著『東洋学の系譜—欧米篇—』115～125頁、大修館書店、1996年12月)、「座談会・中央アジアを読み解く」(アジ研ワールド・トレンド19、2～15頁、1997年1月)。

佐伯 富

③「中国における北と南」(問題と研究26-5、1997年2月)、⑧植松正著『元代江南政治社会史研究』序文(9頁、汲古書院、1997年9月)。

酒井 憲二

- ①「英語教童子教の語彙」(国語国文65-9、35～48頁、1996年9月)、⑦「甲陽軍鑑に見る信玄と文学」(調布学園女子短期大学公開講座、1996年6月22日)。

佐藤 次高

- ①『イスラムの「英雄」サラディン—十字軍と戦った男』(254頁、講談社、1996年5月)、*State and Rural Society in Medieval Islam : Muqta's and Fallahun*, E. J. Brill, Leiden, 337p. ④「日本のイスラーム研究」(中央評論217、19～23頁、1996年10月)、⑦「聖者イブラーヒーム伝説—イスラーム世界から東南アジアへの拡大—」(東洋文庫・春期東洋学講座「アジアの聖者伝説Ⅱ」、1996年5月28日；要旨 東洋学報78-2、53～54頁)、“Islamic and Middle Eastern Studies in Japan : An Historical Review,”(カイロ大学文学部、1996年12月8日)、⑧「未完の英雄サラディン」(本6、24～26頁、1996年6月)、「イスラーム研究の三十年」(財団桜蔭だより11、2～2頁、1997年1月)。

滋賀 秀三

- ⑤「谷井陽子著「清代省例則例考—『東方学報』67冊—」(法制史研究46、283～285頁、法制史学会、1997年3月)。

妹尾 達彦

- ③「唐長安城の官人居住地」(東洋史研究55-2、35～74頁、東洋史研究会、1996年9月)、「隋唐洛陽城の官人居住地」(東洋文化研究所紀要133、67～111頁、東京大学東洋文化研究所、1997年3月)、「黄土地帯の国都と生態環境史」(『自然・人間・文化—場としての歴史学・人類学』、55～62頁、筑波大学歴史・人類学系、1997年3月)、④「アジア学会(AAS)第48回年次大会に参加して」(唐代史研究会会報9、18～21頁、唐代史研究会、1996年7月)、⑤「表徴の帝都—Jeffrey Meyer『天安門の龍—聖なる都市・北京』」(アジア史研究(中央大学)、173～195頁、刀水書房、1996年4月)、⑦“Reorganization of the Realm : Spatial Dimensions of State Policy in Mid and Late T'ang” *The 48th Annual Meeting of the Association for Asian Studies*, Hawaii, April 12 1996. (要旨 *Abstracts of the 1996 Annual Meeting*, AAS, 1996, P.51)、「近年的學術研究狀況」(中国唐史高級研討班第1回会議、中華人民共和國威海衛市、1996年8月5日)、「中唐社会論」(中唐文学会大会、1996年10月、日本大学：要旨『中唐文学会会報 1996年度大会報告』、1996年10月、1頁)、⑧「宇宙の都から生活の都へ」(月刊しにか1996年9月号(特集 花の都・長安)、28～33頁、大修館書店、1996年9月)、「近年的學術狀況」(唐史縦横談、157～168頁、北京：中国社会科学出版社、1996年11月)。

武田 幸男

- ①『隋唐帝国と古代朝鮮』（世界の歴史6 [第2部]、249～420頁、中央公論社、1997年1月）、②『朝鮮の歴史と文化』（216頁、放送大学教育振興会、1996年3月）、『末松保和朝鮮史著作集3（高句麗と朝鮮古代史）』（共編、6+316+8頁、吉川弘文館、1996年4月）、『末松保和朝鮮史著作集4（古代の日本と朝鮮）』（共編、6+366+18頁、吉川弘文館、1996年7月）、『末松保和朝鮮史著作集5（高麗朝史と朝鮮朝史）』（共編、6+369+7頁、吉川弘文館、1996年10月）、『末松保和朝鮮史著作集6（朝鮮史と史料）』（共編、6+423+11頁、吉川弘文館、1997年1月）、⑤「末松保和先生と好太王碑」（『末松保和朝鮮史著作集』第3巻、303～314頁、吉川弘文館、1996年4月）。

C. A. ダニエルス

- ① *Science and Civilisation in China : Volume 6 Biology and Biological Sciences Part III Agro-Industries : Cane-Sugar Production*, (Cambridge University Press, Cambridge, 1996, 539pp.), ③「近世日本の立木式油搾り機の起源—アジア域内諸国における在来産業技術系譜の一事例として」（石橋秀雄編『清代中国の諸問題』、297～322頁、山川出版社、1995年7月）、「雲間の曙光—『明台報』に見られる臺灣籍日本兵の戦後臺灣像—」（*Journal of Asian and African Studies*, No.51, 131～150頁、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1996年3月）、④「『天工開物』の技術を追って1〈紙を乾燥する〉」（中国語439、36～37頁、内山書店、1996年8月）、「『天工開物』の技術を追って2〈竹紙の原料〉」（中国語440、36～37頁、内山書店、1996年9月）、「『天工開物』の技術を追って3〈紙の多様な漉きかた〉」（中国語441、36～37頁、内山書店、1996年10月）、「『天工開物』の技術を追って4〈珍しい歯車〉」（中国語442、36～37頁、内山書店、1996年11月）。

田中 時彦

- ③「直接行動主義の事例研究—五・一五事件の陸軍青年将校と士官候補生の関係」（東海大学紀要〈政治経済学部〉27、119～160頁、1996年3月）、「事例研究：“軍ファシズム”の先駆—五・一五事件直接行動主義者の“国体”ユートピア観念—」（東海大学紀要〈政治経済学部〉28—学部創設30周年記念号(1996)、73～97頁、1996年10月）。

立川 武蔵

- ①『マンダラ』（111頁、学習研究社、1996年6月）、『チベット仏教の神秘』（正木晃

氏と共著、135頁、学習研究社、1997年2月）、『チベット仏教図像研究』（正木晃氏と共編、『国立民族学博物館研究報告』別冊18号、312頁、1997年3月）、*An Introduction to the Philosophy of Nāgārjuna* (tr., by Rolf Giebel, Motilal Banarsidass, India, 1997年3月、212頁)、②『マンドラ宇宙論』（452頁、法蔵館、1996年9月）、③『『唯識三十頌』における仮説と識について（一）』（『今西順吉教授還暦記念論集』（345～356頁、春秋社、1996年12月）、④「解説」（『仏教の思想2・存在の分析』、333～338頁、角川書店、1996年10月）、「解説」（『仏教の思想3・空の論理』、369～377頁、角川書店、1997年2月）、「トゥッチ」（『東洋学の系譜 [欧米編]』、223～234頁、大修館書店、1996年12月）。

### 竺沙 雅章

③『『太平広記』と宋代仏教史籍』（汲古30、43～47頁、汲古書院、1996年11月）、「遼代華嚴宗の一考察—主に、新出華嚴宗典籍の文献学的研究—」（大谷大学研究年報49、1～67頁、大谷大学、1997年3月）、⑦「仏教史学の歩み」（仏教史学会例会、1996年12月21日、大谷大学）、「敦煌写経の歴史」（つがやま市民教養文化講座、1997年2月22日、守山市つがやま荘）、⑧「版本の書—もうひとつの「書」をめぐる」（月刊しにか1996年10月号、58～61頁、大修館書店、1996年10月）、「趙普—趙匡胤を皇帝にした宋開国の功臣—」（歴史読本1996年11月号、92～95頁、人物往来社、1996年11月）、「学問の思い出—小葉田淳博士を囲んで—」（東方学93、163～186頁、東方学会、1997年1月）。

### 鶴見 尚弘

#### 【平成7年度】

②『千頃堂書目著者名索引』（東洋文庫明代史研究委員会編、東洋文庫、1996年3月、5+487+5頁）、③「中国の土地台帳「洪武魚鱗図冊をたずねて」（中村義編『新しい東アジア像の研究』、172～183頁、三省堂、1995年7月）。

#### 【平成8年度】

「福建師範大学所蔵の明代契約文書」（横浜国立大学人文紀要第一類第42輯、1996年）、「中山久四郎—東洋史開拓の先達者—」（『深志人物誌』Ⅱ、深志同窓会、1996年）、Jilinghu 畸零戸 (Supernumerary Households) during the Ming Dynasty (Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko, pp.1～25, No.54, 1996.)、⑦「中国の人口問題と地球環境」（第8回家政教育学会講演、1996年8月）、「中国の人口・食糧問題」（日中問題懇談会、1996年8月）。

### 枋尾 武

③「フランス国立図書館蔵ペリオ蒐集3738 敦煌本「李嶠雜詠注」残巻についての

一考察」(成城文芸155、41～80頁、成城大学、1996年7月)、「大英図書館蔵スタンブリッジ555 敦煌本「李嶠雜詠注」残巻についての一考察」(成城文芸157、1～32頁、成城大学、1997年2月)、「京大本紫明抄 天理本河海抄 引用漢籍注考證稿 桐室(三)」(成城国文学論集25、1～48頁、成城大学大学院、1997年3月)、⑧「岩崎文庫貴重書書誌解題稿—古活字版の部(四)」(共編、東洋文庫書報28、1～31頁、東洋文庫、1996年3月)。

#### 鳥海 靖

②『国史大辞典』15巻上、補遺、索引(同編集委員会編、164+594頁、吉川弘文館、1996年6月)、『国史大辞典』15巻中、索引(同編集委員会編、654頁、吉川弘文館、1996年11月)、⑦「今求められている社会科学習指導—近現代史における歴史理解」(福島県中学校教員経験者研修会、福島県教育センター、1996年8月8日)、「近代日本の国際環境と対外政策—19世紀末から20世紀初めを中心に—」(日本・タイ歴史認識セミナー、国際教育情報センター、1996年9月21日、東京)、「日本における近代国家形成期の西洋文化受容—明六社の活動と国語洋字化論争を中心に」(韓国・日本相互理解に向けた社会科教科書改善研究討論会、39～42頁、韓国教育開発院、1996年11月19日：要旨 韓国・日本相互理解増進을 위한 사회科教科書改善研究討論會、39～42頁、韓国教育開発院、1996年11月、ソウル)、同上(日中社会科教科書交換調査会議、1997年3月15日、中国人民教育出版社、北京)。

#### 中嶋 敏

③「明代進士登科録考」(東洋研究123、29～35頁、大東文化大学東洋研究所、1997年1月)。

#### 永田 雄三

①*Tarihte Ayanlar : Karaosmanoğullar Üzerinde Bir İnceleme.* (Ankara, Türk Tarih Kurumu, 1997, 329p.)、③「後期オスマン帝国の徴税請負制に関する若干の考察—地方名士の権力基盤としての側面を中心に—」(駿台史学100、75～110頁、1997年3月)。

#### 永積 洋子

③「18～19世紀はじめの日本におけるオランダ語学力の向上とロシア問題」(東洋学報78-4、1～30頁、東洋文庫、1997年3月)。

#### 松丸 道雄

①『中国古代の書』(2+24頁、財団法人書壇院、1996年6月、共著)、③「再論殷

墟卜辞的田獵地問題」(『尽心集—張政烺先生八十慶壽論文集—』、中国科学出版社、1996年11月、45~56頁)、④「古代金属技術—中国学最前線」(月刊しにか1996年12月号、118~119頁、大修館書店)、⑥「馬秀銀：序説」(史樹青主編『中国歴史博物館蔵法書大観』第二巻・金文二、135~140頁、柳原書店、1997年3月)、⑦「殷周秦における古文正統書の書き手」(書壇院「中国古代の書」展講演会、1996年6月16日)、「中国古代青銅器の鑄造技法」(高岡短期大学「高度産業工芸技術指導講座・中国古代の鑄造技術を探る」、1996年7月29日)、「中国古代の筆と書法」(水戸・一元会、1996年8月18日)、「漢字の起源について—新出土資料を中心に—」(毎日書道会・札幌展、1996年9月27日)、「中国古文字学について」(日本書道美術館・書道大学、1997年3月16日)、⑧「甲骨文のはなし、1・はじめに」(全書芸1996年4月号、全日本書芸文化院)、「2・甲骨文の発見」(同5月号)、「3・殷のみやこ」(同6月号)、「4・王のなまえ」(同7月号)、「5・王のなまえ(続)」(同8月号)、「6・時期区分」(同9月号)、「7・時期区分(続)」(同10月号)、「8・字形と書体」(同11月号)、「9・占卜の内容—狩獵」(同12月号)、「10・占卜の内容—戦争」(1997年2月号)、「11・更に勉強したい人のために」(同3月号)、「殷周青銅器について」(『中国美術全集』4、青銅器I、京都書院、1996年6月、24~29頁)、「漢字研究に制度的支援を」(中国—社会と文化II、309~314頁、中国社会科学学会、1996年6月)。

## 原 實

②John Brough, Collected Papers, ed., by Minoru Hara and J. C. Wright, pp.xxii+533, School of Oriental and African Studies, University of London, 1996. ③“A Note on the Pāśupata Concept of Duḥkha,” Śrījñānāmṛtam, A Memorial Volume in Honour of Prof. Shri Niwas Shastri, ed., by V. Rani (Parimal Publications Delhi India, 1996), pp.264~275. ④海外東方学界消息『古典インド学』(東方学93、146~156頁、東方学会、1997年1月)、⑤M. A. メヘンダーレ著『マハーバーラタ戦争再考』(東洋学報78-1、88~94頁、東洋文庫、1996年6月)、⑦“A Note on the Epic phrase Jivan-mukta” (The Tenth International Conference of Sanskrit Studies, 5 January 1997 at Bangalore India), “Transfer of Merit in Hindu Literature and Religion” (9 January 1997 at the Indira Gandhi National Centre of Arts.), 「回向思想の背景」(北海道印度学仏教学会、1997年1月17日)。

## 古屋 昭弘

③「17世紀ドミニコ会士ヴァロと『官話文典』」(中国文学研究22、118~129頁、早稲田大学中国文学会、1996年12月)、⑤「影印正字通三種簡介」(中国語学研究開篇14、161~163頁、好文出版、1996年12月)、⑦「魏際瑞の切字訓」(中国語学会関東

支部例会、1996年4月27日)、⑧「正字通解説」(影印『正字通』、1～5頁、東豊書店、1996年4月)。

宮崎 修多

③「漢文戯作」(『岩波講座 日本文学史』第10巻「十九世紀の文学」所収、153～178頁、岩波書店、1996年4月)、「茗謙図録の時代」(文学〈季刊〉7-3、33～45頁、岩波書店、1996年7月)、『石城唱和集』寸断〈複製の部〉(成城国文学論集25、111～185頁、成城大学大学院文学研究科、1997年3月)。

森安 孝夫

③「中央ユーラシアから見た世界史」(あうろーら4、1996年8月、26～38頁)、「世界史の中の異文化交流」(柏木隆雄・山口修編『異文化の交流』、大阪大学出版会、1996年、87～107頁)、「オルトク(幹脱)とウイグル商人」(『近世・近代中国および周辺地域における諸民族の移動と地域開発』(平成7・8年度科学研究費補助金—基盤研究B2—研究成果報告書)、大阪大学文学部、1997年3月、1～48頁)、⑧「先學を語る—榎一雄博士—」(東方学92、1996年7月、161～185頁)、「感動を呼ぶ都市遺跡—モンゴル遊牧民の歴史遺産—」(読売新聞1996年10月25日付夕刊文化欄)、「ポール・ペリオ」(高田時雄編『東洋学の系譜—欧米篇』、1996年12月、大修館書店、137～152頁)、「座談会—欧米の東洋学」(高田時雄編『東洋学の系譜—欧米篇』、1996年12月、大修館書店、279～298頁)、「護雅夫博士の訃」(史学雑誌106-3、1997年3月、114～117頁)。

矢沢 利彦

③「日中両国におけるカトリック受容の比較」(『日中文化交流史叢書第4巻—宗教』、412～432頁、大修館書店、1996年7月)、⑧「ロバート・モリソン」(『東洋学の系譜—欧米篇』、12～21頁、大修館書店、1996年12月)。

柳田 征司

①『京郡大学文学部文学閲覧室蔵抄物目録』(自家版、28頁、1997年2月)、③「日本語学の対象と方法 日本語史」(日本語学15(8)、明治書院、110～116頁、1996年7月)、「幻住派の抄物—九州において外交に当たった僧たちの抄物」(抄物の研究7、1～24頁、抄物研究会、1997年2月)、「東西方言間などに認められる命令形「(起キ)口」と「(起キ)ヨ」の違いは、いつ、なぜ生じたか」(叙説23、1～16頁、奈良女子大学国語国文学会、1997年2月)、「抄物目録稿(原典仏書の部4)」(抄物の研究7、25～57頁、抄物研究会、1997年2月)、「岩崎文庫貴重書書誌解題稿—古活字板の部(四)」(東洋文庫書報28、1～31頁、東洋文庫、1997年3月、石塚晴通他と共に

編)、⑧「〈鼎談〉『毛詩抄』完結によせて」(文学7(3)、90~97頁、岩波書店、1996年7月、赤瀬信吾・木田章義と鼎談)。

柳田 節子

③「宋代の女性像」(『响沫集』9、1996年5月)、⑦「宋代の父老—専制支配に関連して—」(唐代史研究会夏季シンポジウム、1996年7月)、⑧「皇軍兵士の生還」(『歴史家が語る戦後史と私』、吉川弘文館、1996年5月)。

山内 弘一

③「洪大容の華夷観について」(朝鮮学報159、71~109頁、1996年4月)、「朴珪壽と「禮儀之邦」—考証学との関わりをめぐる—」(上智史学41、33~61頁、1996年11月)、「夷と華の狭間で—韓元震に於ける夷狄と中華—」(東洋文化研究所紀要132、39~84頁、1997年2月)、⑦「夷と華の狭間で—韓元震の華夷論管見—」(上智大学史学会大会、1996年11月23日)。

山崎 元一

①『古代インドの文明と社会』(世界の歴史3、390頁、中央公論社、1997年2月)。

山根 幸夫

②『千頃堂書目著者名索引』(東洋文庫明代史研究委員会編、491頁、東洋文庫、1996年3月)、『増補近代日中関係史研究入門』(山根・藤井・中村・太田編、519頁、研文出版、1996年4月)、『東大卒業五十年われわれの道程—東洋史同期生の記録』(神田・谷井・山根編、238頁、山川出版社、1996年4月)、『明史食貨志訳註・補訂版』(和田清編、松本・藤井・山根・佐久間・星・中山・百瀬共著、1375頁、東洋文庫、1996年8月)、③「戦後五十年与日本」(周啓乾訳、外国問題研究1995-3・4、96~97頁、東北師範大学外国問題研究所、1995年12月)、「日中文化交流」(『増補近代日中関係史研究入門』第10章、515~519頁、研文出版、1996年4月)、「対日本現存『三宝太監西洋記』版本的考証」(鄭和研究1996-2、42~44頁、南京鄭和学会、1996年5月)、「天津日本図書館について」(東洋文庫書報28、73~90頁、東洋文庫、1997年3月)、④「1995年明代史論著目録」(明代史研究24、96~100頁、明代史研究会、1996年4月)、「第六屆明史国際學術討論会参加記」(東方学92、141~146頁、東方学会、1996年7月)、「明史食貨志訳註補訂版に寄せて」(『明史食貨志訳註・補訂版』下、1~12頁、1996年8月)、⑤「侯真平『黃道周紀年著述書画考』上下」(東洋学報78-2、42~47頁、東洋文庫、1996年9月)、「『中華族譜集成』第一批紹介」(燎原50、1頁、燎原書店、1996年10月)、「巖修の『東游日記』」(汲古30、52~57頁、汲古書院、1996年11月)、「巨人吟香を丹念に描き出す名著『岸田吟香』」(東方190、

26～29頁、東方書店、1997年1月)、⑧「宮崎市定先生を偲ぶ」(明代史研究24、1～2頁、明代史研究会、1996年4月)、『東大卒業五十年われわれの道程』序(同上書、1～4頁、山川出版社)、「日中学術交流の旅」(同上書、209～238頁、山川出版社)、『千頃堂書目著者名索引』序言(同上書、1～2頁、東洋文庫)、「編集後記」(汲古29号、50頁、汲古書院、1996年7月)、「編集後記」(汲古30号、64頁、汲古書院、1996年11月)、「町田甲一・里井彦七郎両先輩の戦後」(『旧制姫路高等学校・白鷺城下の青春』、126～131頁、旧制姫路高等学校史刊行会、1996年11月)、「15回文甲2組点鬼簿」(同上、779～782頁、同上)、「姫路高校の歴史教官たち」(同上、827～833頁、同上)。

渡邊 宏

③「来明宣教師使用の漢字書『海篇』について」(東洋文庫書報28、32～72頁、東洋文庫、1997年3月)、⑤「バチカン図書館所蔵耶蘇会士中国刊行書目ノート 続」(研究年報1996年31号、41～54頁、東洋大学アジア・アフリカ文化研究所、1997年3月)。

# Ⅲ 業 務 報 告

## 1. 総 務 報 告

### i 財団法人東洋文庫理事会・評議員会の開催

#### 理 事 会

第298回 開催日 平成8年6月4日(火曜日)  
出席者 北村 甫, 石井米雄, 岩崎寛彌, 佐藤次高, 林健太郎, 山本達郎  
委任状 木田 宏, 河野六郎, 斯波義信, 田中正俊, 中根千枝, 中村俊男  
護 雅夫

第299回 開催日 平成8年6月4日(火曜日)  
出席者 北村 甫, 石井米雄, 岩崎寛彌, 佐藤次高, 林健太郎, 山本達郎  
委任状 木田 宏, 河野六郎, 斯波義信, 田中正俊, 中根千枝, 中村俊男  
護 雅夫

第300回 開催日 平成8年12月10日(火曜日)  
出席者 北村 甫, 石井米雄, 岩崎寛彌, 斯波義信, 林健太郎, 山本達郎  
秋山哲兒  
委任状 木田 宏, 河野六郎, 佐藤次高, 田中正俊, 中根千枝, 中村俊男  
護 雅夫

#### 評 議 員 会

第135回 開催日 平成8年6月4日(火曜日)  
出席者 岡野 澄, 神田信夫, 佐竹昭広, 関野 雄, 中嶋 敏, 前田充明  
委任状 井村裕夫, 奥島孝康, 田部文一郎, 鳥居泰彦, 中田乙一  
長谷川周重, 日比野丈夫

### ii 東洋学連絡委員会の開催

前 期 開催日 平成8年5月13日(月曜日)  
出席者 北村 甫(委員長), 尾崎 康, 竺沙雅章, 中嶋 敏, 西田龍雄

日比野丈夫, 間野英二, 山本達郎

- 議 題 1. 平成7年度財団法人東洋文庫事業中間報告について  
2. 平成8年度財団法人東洋文庫事業計画案について  
3. その他

後 期 開催日 平成8年11月26日(火曜日)

出席者 北村 甫(委員長), 尾崎 康, 竺沙雅章, 中嶋 敏, 西田龍雄  
山本達郎

- 議 題 1. 平成8年度財団法人東洋文庫事業中間報告について  
2. 平成9年度財団法人東洋文庫事業計画案について  
3. その他

## 2. 人 事 報 告

### i. 役員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
8. 6. 4	監 事	池 原 正 道	退 任	
〃	〃	種 田 公 二	就 任	
〃	理 事	秋 山 哲 兒	〃	
8.12.23	〃	護 雅 夫	逝 去	

### ii. 職員異動

年月日	役 職 名	氏 名	区 分	備 考
8. 4. 1	文 庫 長	相 島 宏	就 任	
〃	司 書	沢 崎 京 子	就 職	
〃	〃	山 村 義 照	〃	
〃	研究員(兼任)	長谷川 誠 夫	委 嘱	
8. 6. 1	研究員(兼任)	森 安 孝 夫	〃	
8. 8.31	参 事	小 松 眞 理	退 職	
9. 1. 1	研究員(兼任)	気賀澤 保 規	委 嘱	
〃	〃	妹 尾 達 彦	〃	
〃	参 事	藤 村 由美子	就 職	
9. 3.31	司 書	池 田 直 人	退 職	

## IV 役 職 員 名 簿

平成9年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

### 1. 役 員

役 職 名	氏 名	現 職
理 事 長	北 村 甫	東京外国語大学名誉教授
理 事	石 井 米 雄	上智大学教授 京都大学名誉教授
〃	岩 崎 寛 彌	東山農事株式会社代表取締役社長
〃	木 田 宏	財団法人新国立劇場運営財団理事長
〃	河 野 六 郎	日本学士院会員 東京教育大学名誉教授
〃	佐 藤 次 高	財団法人東洋文庫研究部長 東京大学教授
〃	斯 波 義 信	財団法人東洋文庫図書部長 国際基督教大学教授
〃	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
〃	中 根 千 枝	財団法人民族学振興会理事長 東京大学名誉教授
〃	中 村 俊 男	株式会社三菱銀行相談役
〃	林 健太郎	東京大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授
監 事	白 石 元 良	前三菱金曜会事務局長
〃	種 田 公 二	株式会社パスコ監査役

役職名	氏名	現職
評議員	井村裕夫	京都大学長
〃	岡野澄	東京工業高等専門学校名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	奥島孝康	早稲田大学総長
〃	神田信夫	明治大学名誉教授
〃	佐竹昭広	国文学研究資料館長
〃	関野雄	東京大学名誉教授
〃	田部文一郎	三菱商事株式会社相談役
〃	鳥居泰彦	慶応義塾長
〃	中嶋敏	東京教育大学名誉教授
〃	中田乙一	三菱地所株式会社相談役
〃	長谷川周重	住友化学工業株式会社相談役
〃	日比野丈夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	前田充明	城西大学名誉教授 財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化 研究センター顧問
〃	吉川弘之	東京大学長

## 2. 東洋学連絡委員会

役 職 名	氏 名	現 職
委 員 長	北 村 甫	財団法人東洋文庫理事長
委 員	入 矢 義 高	花園大学客員教授 名古屋大学名誉教授
〃	江 上 波 夫	古代オリエント博物館長 東京大学名誉教授
〃	尾 崎 康	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫教授
〃	佐 藤 長	京都大学名誉教授
〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授 京都大学名誉教授
〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授
〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
〃	日比野 丈 夫	大手前女子大学長 京都大学名誉教授
〃	本 田 實 信	名古屋商科大学教授 京都大学名誉教授
〃	山 本 達 郎	日本学士院会員 東京大学名誉教授

### 3. 名誉研究員

氏 名	現 職
W.T.デ・パリイ	コロンビア大学教授
J. ジエルネ	第7パリ大学教授 フランス国立高等研究院研究指導員
H. ルランケ	ミュンヘン大学教授
L. ベテック	ローマ大学教授

### 4. 職 員

(平成9年3月31日現在)

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	部 長	佐 藤 次 高	東京大学教授
	研究員 (兼任)	荒 松 雄	東京大学名誉教授
	〃	池 田 温	創価大学教授
	〃	池 端 雪 浦	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	石 井 米 雄	上智大学教授
	〃	石 塚 晴 通	北海道大学教授
	〃	石 橋 崇 雄	国土館大学助教授
	〃	市 古 宙 三	お茶の水女子大学名誉教授
	〃	上 野 英 二	成城大学教授
	〃	宇都木 章	青山学院大学名誉教授
	〃	梅 田 博 之	麗澤大学教授
	〃	梅 村 坦	中央大学教授
	〃	海 野 一 隆	大阪大学名誉教授
	〃	大 江 孝 男	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所教授
	〃	太 田 幸 男	東京学芸大学教授
	〃	小 名 康 之	青山学院大学教授
	〃	越 智 重 明	九州大学名誉教授
	〃	岡 田 英 弘	東京外国語大学名誉教授
	〃	風 間 喜代三	法政大学教授
	〃	片 山 章 雄	東海大学助教授
〃	加 藤 直 人	日本大学助教授	
〃	川 崎 信 定	筑波大学教授	

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（兼任）	神 田 信 夫	明治大学名誉教授
	〃	菊 池 英 夫	中央大学教授
	〃	北 村 甫	東京外国語大学名誉教授
	〃	草 野 靖	福岡大学教授
	〃	C.A. ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	気賀澤 保 規	明治大学教授
	〃	小 松 久 男	東京大学教授
	〃	河 野 六 郎	東京教育大学名誉教授
	〃	後 藤 明	東京大学東洋文化研究所教授
	〃	後 藤 均 平	立教大学名誉教授
	〃	佐 竹 昭 広	国文学研究資料館長
	〃	佐 伯 富	京都大学名誉教授
	〃	酒 井 憲 二	調布学園女子短期大学長
	〃	滋 賀 秀 三	東京大学名誉教授
	〃	薨 勇 造	東京大学教授
	〃	斯 波 義 信	国際基督教大学教授
	〃	志 茂 碩 敏	国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	清 水 宏 祐	九州大学教授
	〃	杉 山 正 明	京都大学教授
	〃	鈴 木 立 子	愛知大学助教授
	〃	妹 尾 達 彦	筑波大学助教授
	〃	関 野 雄	東京大学名誉教授
	〃	田 中 時 彦	東海大学教授
	〃	田 中 正 俊	東京大学名誉教授
	〃	武 田 幸 男	名古屋市立大学教授
	〃	立 川 武 蔵	国立民族学博物館教授
	〃	田 村 晃 一	青山学院大学教授
	〃	千 葉 熨 長	桐朋学園大学理事長
	〃	竺 沙 雅 章	大谷大学教授
	〃	鶴 見 尚 弘	横浜国立大学教授
	〃	朽 尾 武	成城大学教授
	〃	土 肥 義 和	国学院大学教授
	〃	鳥 海 靖	中央大学教授
	〃	中 嶋 敏	東京教育大学名誉教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
研究部	研究員（兼任）	永 積 洋 子	城西大学教授
	〃	永 田 雄 三	明治大学教授
	〃	中 見 立 夫	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	西 田 龍 雄	京都大学名誉教授
	〃	長谷川 誠 夫	慶応義塾大学講師
	〃	八尾師 誠	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所助教授
	〃	花 田 宇 秋	明治学院大学教授
	〃	林 佳世子	東京外国語大学助教授
	〃	原 實	東京大学名誉教授
	〃	藤 枝 晃	京都大学名誉教授
	〃	古 屋 昭 弘	早稲田大学教授
	〃	星 実千代	東京外国語大学アジア・アフリカ 言語文化研究所研究員
	〃	本 田 實 信	京都大学名誉教授
	〃	松 涛 誠 達	大正大学教授
	〃	松 丸 道 雄	東京大学名誉教授
	〃	松 村 潤	日本大学名誉教授
	〃	三 浦 徹	お茶の水女子大学助教授
	〃	三根谷 徹	東京大学名誉教授
	〃	御 牧 克 己	京都大学教授
	〃	宮 崎 修 多	成城大学助教授
	〃	森 岡 康	元国立国会図書館支部東洋文庫司書
	〃	矢 澤 利 彦	埼玉大学名誉教授
	〃	柳 田 征 司	愛媛大学教授
	〃	柳 田 節 子	元学習院大学教授
	〃	山 内 弘 一	上智大学助教授
	〃	山 口 瑞 鳳	東京大学名誉教授
〃	山 口 謡 司	イギリス・ケンブリッジ大学助手	
〃	山 崎 元 一	国学院大学教授	
〃	山 根 幸 夫	東京女子大学名誉教授	
研究部	研究員（兼任）	山 本 達 郎	東京大学名誉教授
	〃	渡 辺 紘 良	独協医科大学教授

部 名	職 名	氏 名	現 職
	研究員（兼任）	渡 辺 宏	東洋大学アジア・アフリカ 研究所研究員
	〃	和 田 博 徳	創価大学教授
	研究員（専任）	福 田 洋 一	
	〃	本 庄 比佐子	
	〃	松 本 明	

部 名	職 名	氏 名
図書部	部 長	斯 波 義 信
	東洋文庫長	相 島 宏※
	文庫長補佐	小 山 勲※
	主 査	池 田 直 人※、志 茂 碩 敏※
	副 主 査	小 林 輝 男※
	事 務 主 任	西 薊 一 男※
	司 書	桜 井 徹、中善寺 慎※、辺 見 由起子※ 沢 崎 京 子、山 村 義 照
総務部	部 長	秋 山 哲 兒
	課 長	光 田 憲 雄
	会 計 係 長	金 子 祐 子
	参 事	中 沢 元 幸、橘 伸 子、藤 村 由美子
		吉 田 男佐武、長谷川 茂 広

（※印は国立国会図書館支部東洋文庫職員）

## 5. 臨時職員

部 名	氏 名
研究部	五十嵐麻理世 石川重雄 石川美恵 伊藤洪二 伊藤千賀子 岩永和子
	岩本篤志 大河原洋子 王 建新 王 詩倫 大塚雅子 奥野陽子
	現銀谷史明 河本和子 木下宗篤 近藤智子 坂井弘紀 柴谷果織
	嶋津さおり 下山裕子 菅原 純 鈴木直子 高木健翁 龍野香代子
	徳増克己 中町信孝 橋本雄一 福田立子 福田裕美子 森島 聡
	安田震一 山口昭彦 山田紀子 吉川次郎 吉田豊子 渡辺日日
	安宅真弓 岩見 隆 呉 吉煥 岡田泰介 金沢悦男 金 俊憲
	清水一枝 高木雅弘 高瀬奈津子 高田まゆみ 竹越 孝 外川和雅
	荷見守義 深見和子 古田幸三 前島佳孝 目黒 輝 呂 静
	総務部

## V 財団法人東洋文庫附置 ユネスコ東アジア文化研究センターの事業

【概要】 東アジアを中心とするアジア諸地域の人文・社会科学の分野の研究に関するインフォメーション・センターとしての機能をはたし、研究情報の交換、研究者の交流の促進、および研究成果の普及を図る。

### 1. ユネスコ協力活動

【概要】 ユネスコ本部の企画・運営する事業に対して日本における機関として積極的に協力し、関連する諸事業を推進する。

#### 【事業内容】

#### (1) 「中央アジア文明史」編集協力

ユネスコ本部の編集にかかる「中央アジア文明史」シリーズについて、本部から編集委員の委嘱を受けた梅村坦中央大学教授を中心として組織した「中央アジア文明史編集協力委員会」を通じて、同シリーズ第5巻・第6巻（16世紀-20世紀）の編集に協力した。

専門委員：梅村 坦、久保一之、小松久男、新免 康、中見立夫、羽田 正、  
濱田正美、堀 直、森川哲雄

#### (2) 参加事業計画

ユネスコ本部の参加事業計画 UNESCO Participation Programme 1996-1997 に「Asian Research Trends の編集・出版」事業 (2-1) をもって参加した。

### 2. 学術情報活動 —アジア・北アフリカ人文・社会科学関係—

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域の文化・社会の研究に関する情報を組織的かつ継続的に収集・交換し、その情報を公開することによって、国内外の諸研究機関および研究者の間の交流・協力を促進する。

## 2-1. Asian Research Trends の編集・出版

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の研究情報を全世界に向けて提供する。

### 【事業内容】

英文の年刊誌 “Asian Research Trends : A Humanities and Social Science Review” の編集・出版を行なった。本年度は No. 7 (1997) を刊行し、アジア諸国におけるアジア研究・自国研究を中心に掲載、あわせてセンターの活動紹介を掲載した。A 5判変型 (2,000部)。

専門委員：池端雪浦、梅村 坦、佐藤次高、中里成章、濱下武志、山内弘一、  
山崎元一

委員会：12月19日 No. 8以降の編集方針について検討し、執筆依頼の人選を行なった。

## 2-2. 国内外研究情報の収集

【概要】 国内外のアジア・北アフリカ研究機関及び研究者の活動に関する情報を収集し、国際的な学术交流のための基礎資料とする。

### 【事業内容】

#### (1) 国内研究情報の収集

いわゆる「東洋学」の関連研究分野における研究機関のネットワーク形成を推進するため、主要なアジア研究機関・学会、および日本学術会議等との間に、相互の訪問・通信等による研究情報の交換を行なった。また、研究機関が発行する要覧・紀要等を収集した。

#### (2) 国外研究情報の収集

##### (2)-A. 国外研究機関の訪問調査

本年度の調査対象地域の研究機関・研究状況等について資料を収集し、当該地域に所在するアジア関係研究機関の訪問調査を実施した。その対象国・派遣調査員・調査期間は下記のとおりである。

大韓民国：藤井和夫（センター運営委員、日野市教育委員会 生涯学習課 文化財係長）  
7月24日－7月28日  
大韓民国：藤井和夫（前 掲）  
10月31日－11月10日  
大韓民国：藤井和夫（前 掲）  
2月13日－2月19日  
大井 剛（センター調査外事室長）  
2月16日－2月25日

本調査は、同国に関する継続調査の一環として行なわれ、慶尚北道・慶尚南道及び

ソウル所在の機関を訪問した。なお、本事業の実施に際し、有限会社多摩アセット（東京都町田市）の援助を受けた。

中華人民共和国：

8月17日－8月27日

藤井和夫（前 掲）

本調査は、同国に関する継続調査の一環として行なわれ、遼寧省に所在する機関を訪問した。

インドネシア共和国：

3月7日－3月26日

弘末雅士（天理大学国際文化学部助教授）

本調査は、同国に関する継続調査の一環として行なわれ、ジャワ・スマトラ・スラウェシ・バリに所在する機関を訪問した。なお、本事業の実施に際し、財団法人民族学振興会の助成金を受けた。

## (2)－B. 講演会の開催

来日中の外国人研究者を招いて講演会を開催し、諸外国の研究情報を得、国内研究者との交流を図った。

7月19日（金）

講 師：李 相 均 韓国、全州大学校講師

主 題：「湖南地方の先史文化－韓国考古学の成果－」

会 場：東洋文庫講演室

10月11日（金）

講 師：魏 堅 中国、内蒙古文物考古研究所副所長

主 題：「内モンゴル考古学－近年の発見と研究成果－」（中国語）

会 場：東洋文庫講演室

通訳者：徐光輝 龍谷大学国際文化学部専任講師

2月12日（水）

講 師：李 晶 淑 韓国、釜山女子大学校講師

主 題：「解放後韓国古代史研究と儒学思想」（韓国語）

会 場：東洋文庫会議室

通訳者：李準浩 東京大学大学院学生

3月12日（水）

講 師：楊 志 軍 中国、黒龍江省文物管理局副局長

主 題：「黒龍江省考古学における最近の成果」（中国語）

会 場：青山学院大学文学部

通訳者：大貫静夫 東京大学大学院人文社会系研究科助教授

共 催：東北亜細亜考古学研究会

下記の講演会・研究会の開催に協力した。

1月30日(木)

講師：林永珍 韓国、全南大学校社会科学大学人類学科副教授

主題：「全羅南道の前方後円形古墳」(韓国語)

会場：東京都立大学人文学部

主催：東京都立大学人文学部考古学研究室

3月6日(木)

講師：楊志軍 (前掲)

主題：「渤海上京龍泉府遺跡の発掘調査と保護」(中国語)

会場：奈良国立文化財研究所

主催：奈良国立文化財研究所

(2)-C. 外国人研究者、各種専門家に対する便宜供与

本年度 2-2-(2)-Bおよび2-2-(3)に記載の外国人研究者以外に、センターを訪れ、またはセンターが情報提供等の便宜供与を行なった外国人研究者は下記の通りである。

Beillevoire, Patrick	Chargé de Recherche, Centre de Recherches sur le Japon Contemporain, Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), Paris, France
Mormanne, Thierry	Chercheur, Maison Franco-Japonaise, Tokyo
Nguyen Tuan Khanh	Center for Japan Studies, National Center for Social and Human Sciences, Hanoi, Vietnam
Lapian, Adrian B.	Professor of History, Faculty of Letters, Univ. of Indonesia, Jakarta, Indonesia
蔡尚植	釜山大学校人文大学史学科教授、釜山、韓国
金東哲	釜山大学校人文大学史学科副教授、釜山、韓国
金琪燮	釜山大学校人文大学史学科、釜山、韓国
崔元奎	釜山大学校人文大学史学科、釜山、韓国
尹用出	釜山大学校師範大学歴史教育科教授、釜山、韓国
鄭容淑 (Ms)	釜山大学校師範大学歴史教育科教授、釜山、韓国
全基雄	東亜大学校師範大学史学科講師、釜山、韓国
魏恩淑 (Ms)	慶星大学校講師、釜山、韓国
李正守	東西大学校人文社会大学教授、釜山、韓国
具山祐	蔚山大学校人文大学史学科講師、蔚山、韓国
金光玉	培材大学校社会大学日本学科助教授、大田、韓国
Green, Catherine (Ms)	
Green, Jared	

王 仁 旺	内蒙古文物考古研究所所員、呼和浩特、中国
吉 平	内蒙古文物考古研究所所員、呼和浩特、中国
傅 佳 欣	吉林省文物考古研究所助理研究員、長春、中国
Leo Suryadinata	Associate Professor, Dept. of Politics, National Univ. of Singapore, Singapore
Pheuiphanh Ngaosyvathn	Legal Counsellor, Vientiane, Lao PDR
河 世 鳳	東京大学東洋文化研究所客員研究員；全北大学校人文科学大学史学科教授、全州、韓国
Hegazi, Mahmoud F.	Chairman of the National Library and Archives of Egypt, Cairo, Egypt
McLurg, Alastair	Social Science Division, UNESCO
Ch'ng Kim See	Librarian, Institute of Southeast Asian Studies, Singapore
田 広 金	内蒙古文物考古研究所研究員、呼和浩特、中国
索 秀 芬	内蒙古文物考古研究所研究員、呼和浩特、中国
田 文 濤	内蒙古文物考古研究所助理館員、呼和浩特、中国
李 勛 相	東京大学東洋文化研究所客員研究員；東亜大学校人文科学大学史学科教授、釜山、韓国
Mattani Moj dara Ruttnin	Professor, Drama Dept., Thammasat Univ., Bangkok, Thailand

(2) - D. フランス国立極東学院東京支部との協力

財団法人東洋文庫内に平成6年4月設置されたフランス国立極東学院東京支部との交流を促進した。東京支部長は、8月までジャン＝ピエール・ベルトン氏（同学院客員研究員；フランス国立学術研究センター研究員）、9月からティエリ・モルマン氏（同学院非常勤）である。

Berthon, Jean-Pierre Chercheur associé, Section de Tôkyô, École française d'Extrême-Orient (EFEO)

Chargé de Recherche, Centre National de la Recherche Scientifique (CNRS), Paris, France

Mormanne, Thierry allocataire de l'École française d'Extrême-Orient, représentant de l'École à Tôkyô

(3) 海外専門家の招聘

学術交流を目的として海外の専門家を下記の通り招聘した。

李 相 均 全州大学校講師

魏 銀 京

平成8年7月17日－7月30日 上記両氏は東北アジア考古学の日韓対照研究を目的として、近畿・九州地方の考古遺跡等を視察し、各地の関係機関への訪問、研究者との交流、韓国文化に関する講演を行なった。本事業の実施に際し、財団法人民族学振興会の助成金を受けた。

楊 志 軍 黒龍江省文物管理局副局長

平成9年3月1日－3月16日 同氏は東北アジア考古学・歴史学の研究および文化遺産の保存に関する日中相互理解を目的として、近畿・北陸・関東地方の考古遺跡等を視察し、各地の関係機関への訪問、研究者との交流、中国文化に関する講演を行なった。本事業は、奈良国立文化財研究所・石川県立埋蔵文化財センターとの協力のもとに実施された。

学術交流を目的として、来日中の専門家を下記の通り国内において招聘した。

李 晶 淑 釜山女子大学校講師

平成9年2月1日－14日 同氏は韓国歴史学に関する日韓相互理解を目的として、関東・近畿各地の関係機関への訪問、研究者との交流、韓国文化に関する講演を行なった。本事業の実施に際し、財団法人民族学振興会の助成金を受けた。

#### (4) 在日漢籍所在調査

日本における漢籍蒐集の現状の調査を進めるため、国内所在の文庫・図書館の調査を継続した。

### 2-3. 文献目録の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」(2-2)において収集した学術情報をコンピュータ入力してデータベース化し、bibliographyとして編集する。収集データは、英文出版物およびコンピュータネットワークにより公開して、内外の研究者・研究機関に提供する。

#### 【事業内容】

##### (1) 「明治初期翻訳文献目録」の編集

同書の編集のための調査を行ない、目録カードの点検整備を進めた。本書は、日本の明治時代初期に翻訳・翻案された外国文献について調査し、その原典と翻訳出版とを明らかにした目録データベースである。編集にあたり当センターがかつて実施した調査の資料をデータとした。

##### (2) 「日本における中央アジア関係研究文献目録」続篇の編集

同目録(1879年-1987年分収載、1988年刊行)に続く同目録続篇(1987年以降分収載)の編集を行なった。

### (3) コンピュータ通信による情報提供

コンピュータ通信をメディアとして「日本における中央アジア関係研究文献目録」および「日本における中東・イスラーム研究文献目録」のデータを公開した。その電子図書館は、パーソナルコンピュータ通信ネットワーク「NIFTY-Serve」の「歴史フォーラム」のデータライブラリである。

## 2-4. Directory の編集・出版

【概要】 上記「国内外研究情報の収集」(2-2)において収集した学術情報をコンピュータ入力してデータベース化し、directory として編集する。収集データは、英文出版物およびコンピュータネットワークにより公開して、内外の研究者・研究機関に提供する。

### 【事業内容】

#### (1) 国内研究者名簿の作成

研究者名簿の収集・整理、研究者個人カードの作成、個人アンケート調査を通じて、各研究者の活動状況に関する情報を収集・更新した。データに基づき「日本におけるアジア諸言語・文学研究者名簿」の編集・出版を行なった。

“Directory of Asian Language and Literature in Japan, 1997” B5判(1,000部)。

また「日本における中国哲学・思想・宗教研究者名簿」の編集を行なった。

#### (2) 海外研究機関一覧の編集

韓国、中国、台湾、インドネシア、タイ、インドに所在するアジア関係研究機関のリストの作成および資料収集を行なった。

#### (3) 「日本におけるアジア研究機関一覧」の編集

国内研究機関のリストの作成および資料収集を行なった。

## 3. 重要文献の保存・普及活動

—アジア重要文化財(文献)の保存・普及—

【概要】 アジア諸地域の文化・社会の理解に資する貴重な文献を、アジア重要文化財として保存し普及させるため、複製・翻訳等の方法によって紹介し、研究者の利用に供するとともに広く一般読者の理解を得る。

### 3-1. 「アジア重要文献覆刻叢書」の編集・出版

【概要】 アジア重要文化財として高い価値を有しながら、散逸の危険にさらされている文献や、入手のきわめて困難な文献について、それを写真版によって複製し、普及を図る。

#### 【事業内容】

専門委員：佐藤次高、武田幸男、立川武蔵、御牧克己、湯山 明

#### (1) 「スタイン蒐集東トルキスタン出土チベット古文書集成」の編集・出版

“Old Tibetan Manuscripts from East Turkestan in the Stein Collection of the British Library,” compiled by Tsuguhito Takeuchi. Vol. I Plates ; Vol. II Descriptive Catalogue.

「アジア重要文献覆刻叢書」第11巻・第12巻として、「チベット古文書集成編集刊行委員会」（委員長：山崎元一國學院大學教授）の委託を受けて、同書の編集を行ない、同書Ⅰ・Ⅱを出版した。本書は、大英図書館所蔵のオーレル・スタイン蒐集資料のうち東トルキスタン出土のチベット語古文書を、英文解説を付して複製したものである。編者は、武内紹人京都教育大学教育学部助教授である。なお、本書は大英図書館との共同出版である。A4判（1,000部）。

#### (2) 「ボン門明解」の編集・出版

“Bon sgo gsal byed : Two Tibetan Manuscripts in Facsimile Edition of a Fourteenth Century Encyclopedia of Bon po Doxography,” presented by Katsumi Mimaki and Samten Karmay.

「アジア重要文献覆刻叢書」第13巻として、同書の編集・出版を行なった。本書は、14世紀のボン教チベット語教義書である。編者は、御牧克己京都大学大学院文学研究科教授、およびサムテン・カルメイ・パリ第10大学教授である。A4判（1,000部）。

### 3-2. アジア史料の保存・普及

【概要】 アジア諸地域の歴史と文化に関する基本的史料を収集・保存するとともに、広く普及を図る。

#### 【事業内容】

#### (1) 「アジア史料叢刊」の編集・出版

同シリーズの一点として「十九世紀対外関係ベトナム史料」の編集を行なった。本書は、19世紀のタイ・ラオス外交に関するベトナム漢文史料『国朝處置萬象事宜録』鈔本2巻の本文を英訳し、解説と注釈とを付したものである。訳注者は、マユリ・ガオシヴァトゥン氏およびプイパン・ガオシヴァトゥン氏である。

#### (2) ユネスコ寄託マイクロフィルムの保存・普及

## 4. 研究普及活動

### 4-1. 研究成果の英文出版

【概要】 アジア諸地域の文化・社会に関する研究の成果を英文で出版し、関係の研究者に周知させる。

#### 【事業内容】

#### (1) 「プレ・アンコール期カンボジア研究」の編集

同書の編集を進めた。本書は、カンボジア出土の7-8世紀クメール語・サンスクリット語碑文に関する研究書である。著者は、マイケル・ヴィックリー・マレーシア国立大学人文学部教授である。

#### (2) 「東南アジアのヒンドゥー・仏教建築」編集協力

同書の英訳出版に際し、その事業に協力した。同書は8月にオランダ E.J.Brill 社より刊行された。著者は千原大五郎氏である。

“Hindu-Buddhist Architecture in Southeast Asia,” by Daigoro Chihara. Translated by Rolf W. Giebel. Leiden : E.J.Brill, 1996. [Studies in South Asian Culture series, Vol. XIX, edited by Jan Fontein]

#### (3) 出版物の再版

センターの既刊図書「タイにおける資本蓄積 1855年-1985年」(末廣昭著、1989年刊)、および「タイ国舞台芸術史」(マッタニ・ラットニン著、1993年刊)がタイ国 Trasvin Publications 社より刊行された。

また、「古地図にみる東アジア」(中村拓著、1962年刊)、および「16世紀フィリピンにおける華僑」(陳荊和著、1968年刊)を増刷した(各300部)。

### 4-2. 語学講習会

【概要】 アジア諸言語の講習会を、初学者を対象として短期集中方式により実施し、学習の機会に乏しい言語の教育を行なうとともに、語学教授法の発達に寄与する。

#### 【事業内容】

#### (1) 第36回語学講習会「フィリピン語(タガログ語)講習会」の開催

名古屋大学大学院国際開発研究科、および同大学文学部、言語文化部の要請に応え、この三者との共催により下記のとおり実施した。名古屋大学大学院の履修単位に認定されるとともに、大学の社会人教育の一環として大学と地域社会との交流にも貢献した。

期 間：7月22日(月)-8月16日(金)10時-16時(土・日曜日を除く)

共 催：名古屋大学大学院国際開発研究科

名古屋大学文学部

名古屋大学言語文化部

会 場：名古屋大学大学院国際開発研究科会議室

講 師：菅谷成子 名古屋女子大学短期大学部助教授

井川えり 国際青少年友好センター・フィリピン語辞書編集委員

マリア・エスペランサ 名古屋布池カトリック教会文化センター講師

修了者：12名

備 考：名古屋大学大学院国際開発研究科は、修了者のうち同大学院在籍者4名に対し履修単位を認定した。

#### 4-3. 普及活動

【概要】 国内外の研究者・研究機関の活動を促進する情報を提供し、またセンターを事務局とすることが効果的と認められる事業を企画・運営する。

##### 【事業内容】

「センター出版物目録」「CEACS Publications Catalogue 1997」（英文）を刊行した（1,200部）。

コンピュータネットワーク「インターネット」への東洋文庫ホームページ公開に伴い、センターホームページを作成し、開設した。

センターの活動についての問合せに応じ、また出版物の寄贈交換等を行なった。

下記の機関・学会において出版物の展示・頒布を行なった。

東京国立博物館（通年）

第48回 Association for Asian Studies 大会（ホノルル：ヒルトン・ハワイアン・ヴィレジ、4月11日－4月14日）

## 5. 情報公開促進

【概要】 アジア・北アフリカ諸地域を対象とする人文・社会科学の最新の研究情報を迅速かつ正確に伝達するため、情報公開促進の基盤整備を行なう。

##### 【事業内容】

#### （1）国際交流基金アジアセンター・コンピュータネットワーク事業

国際交流基金アジアセンターの助成を受けて、コンピュータネットワークをメディアとする情報公開の促進を企画・推進した。10月1日より、文部省学術情報センターの情報検索サービス（NACSIS - IR）を通じて、下記のデータを公開した。

A. 文献目録データベース

「日本における中央アジア関係研究文献目録」

「日本における中東・イスラーム研究文献目録」

B. Directory データベース

「日本におけるアジア歴史研究者ディレクトリ」

「日本における印度学・仏教学研究ディレクトリ」

## 6. 業 務 報 告

### A. 運営委員会・顧問会議

#### 運営委員会

前 期 開 催 日 平成 8 年 5 月 13 日 ( 月 ) 13 時 30 分 - 14 時 45 分  
場 所 東洋文庫 3 階会議室  
出席委員 7 名 委任状 9 名  
報 告 1. 顧問の委嘱について  
2. 参与の委嘱について  
3. 運営委員の委嘱について  
議 題 1. 平成 7 年度事業報告及び決算報告について  
2. 平成 8 年度事業計画及び予算案について

後 期 開 催 日 平成 8 年 11 月 26 日 ( 火 ) 10 時 35 分 - 11 時 30 分  
場 所 東洋文庫 3 階会議室  
出席委員 9 名 委任状 7 名  
報 告 1. 顧問の委嘱について  
2. 運営委員の委嘱について  
議 題 1. 平成 8 年度事業中間報告及び収支状況報告について  
2. 平成 9 年度事業計画案及び収支予算案について

#### 顧 問 会 議

開 催 日 平成 8 年 5 月 13 日 ( 月 ) 13 時 30 分 - 14 時 45 分  
場 所 東洋文庫 3 階会議室  
出席顧問 2 名 委任状 3 名  
報 告 1. 顧問の委嘱について  
2. 参与の委嘱について  
3. 運営委員の委嘱について  
議 題 1. 平成 8 年度事業報告及び決算報告について  
2. 平成 9 年度事業計画及び予算案について

B. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	現職
8年 4. 1	運営委員	濱下 武志	就任	東京大学東洋文化研究所長
6.30	参 与	織田 武雄	退任	京都大学名誉教授
6.30	運営委員	河野 靖	退任	上智大学アジア文化研究所客員研究員
7. 1	顧 問	岡野 澄	再任	東京工業高等専門学校名誉教授
7. 1	顧 問	山本 達郎	再任	日本学士院会員
7. 1	参 与	中村 元	再任	日本学士院会員
7. 1	参 与	長尾 雅人	再任	日本学士院会員
7. 1	運営委員	藤井 和夫	再任	実践女子大学講師
8. 7	運営委員	太田 博	退任	国際交流基金専務理事
8. 8	運営委員	荒 義尚	就任	国際交流基金専務理事
8. 9	顧 問	中根 千枝	退任	日本ユネスコ国内委員会会長
8.10	顧 問	三浦 朱門	就任	日本ユネスコ国内委員会会長
8.15	参 与	丸山 眞男	逝去	日本学士院会員
9年 3.31	運営委員	望月 敏夫	退任	文部省大臣官房審議官
3.31	運営委員	宮地 正人	退任	東京大学史料編さん所長
3.31	運営委員	阪上 孝	退任	京都大学人文科学研究所長

C. 会計報告

平成8年度 ユネスコ東アジア文化研究センター収支決算書

(平成9年3月31日現在)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金額(千円)	科 目	金額(千円)
事 業 費	28,206	国 庫 補 助 金	79,400
ユネスコ協力活動費	565	財 産 収 入	2
学術情報活動費	14,565	ユネスコ援助金	1,000
重要文献の保存・普及	6,393	民族学振興会助成金	1,940
活動費		国際交流基金	
研究普及活動費	4,186	アジアセンター助成金	2,497
情報公開促進費	2,497	雑 収 入	1,436
経 常 費	58,069		
人 件 費	57,593		
事 務 費	476		
計	86,275	計	86,275

## 7. 役職員名簿

平成9年3月31日現在の役職員は下記のとおりである。

[注] Eは ex officio (官職指定)。

### A. 役員

役職名	氏名		現職
所長	石井米雄		上智大学アジア文化研究所教授，京都大学名誉教授，財団法人東洋文庫理事
顧問	浅尾新一郎	E	国際交流基金理事長
	岡野澄		東京工業高等専門学校名誉教授，財団法人東洋文庫評議員
	林田英樹	E	文部省学術国際局長
	前田充明		財団法人国際学友会理事，城西大学名誉教授，財団法人東洋文庫評議員
	三浦朱門	E	日本ユネスコ国内委員会会長
	山本達郎		日本学士院会員，東京大学名誉教授，財団法人東洋文庫理事
参与	田村實造		京都大学名誉教授
	中村元		日本学士院会員，東京大学名誉教授，東方学院長
	長尾雅人		日本学士院会員，京都大学名誉教授
運営委員	荒義尚	E	国際交流基金専務理事
	池端雪浦		東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授・所長
	辛島昇		大正大学文学部教授，東京大学名誉教授
	阪上孝	E	京都大学人文科学研究所長
	佐々木高明		国立民族学博物館教授・館長
	佐藤次高		東京大学大学院人文社会系研究科教授，財団法人東洋文庫理事
	斯波義信		国際基督教大学教養学部教授，財団法人東洋文庫理事
	竺沙雅章		大谷大学文学部教授，京都大学名誉教授
	坪内良博	E	京都大学東南アジア研究センター所長

役職名	氏名		現職
運営委員	戸川 芳郎		二松学舎大学大学院文学研究科教授， 東京大学名誉教授
	中西 鈞治	E	文部省大臣官房審議官
	中根 千枝		財団法人民族学振興会理事長，東京大学 名誉教授，財団法人東洋文庫理事
	野坂 康夫	E	文部省大臣官房審議官
	濱下 武志	E	東京大学東洋文化研究所長
	藤井 和夫		実践女子大学講師
	三角 哲生	E	財団法人ユネスコ・アジア文化センター 理事長
	宮地 正人	E	東京大学史料編さん所長
	山崎 元一		國學院大學文学部教授
山田 勝久	E	アジア経済研究所長	

## B. 職員

室名	職名	氏名
調査外事室	室長	大井 剛
	研究員	近藤 敦子
普及室	室長	外池 明江
	研究員	設楽 靖子
	参事	坂本 葉子
庶務会計室	室長	飯田 隆子
	参事	小林 和弘
外国人専門員		John Wisnom

## C. 臨時職員

平成8年4月1日から平成9年3月31日までの間に在籍した臨時職員は下記のとおりである。

秋葉淳，飯田巳貴，小沢直幸，尾沼君江，河原弥生，小前亮，斎藤久美子，篠崎陽子，  
島田志津夫，島谷泰子，世古龍太郎，竹中明洋，西田暢子，原山隆広，松沼素子，  
森山央朗，矢野泰紀，山本美華，渡部良子

財団  
法人 東洋文庫年報 平成8年度

---

平成10年3月20日 発行

発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫  
北 村 甫

印刷者 (株)こまつデータシステム

発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

財団法人 東洋文庫

---

